

II. 調查結果

1. 環境問題に関する意識について（問 1）

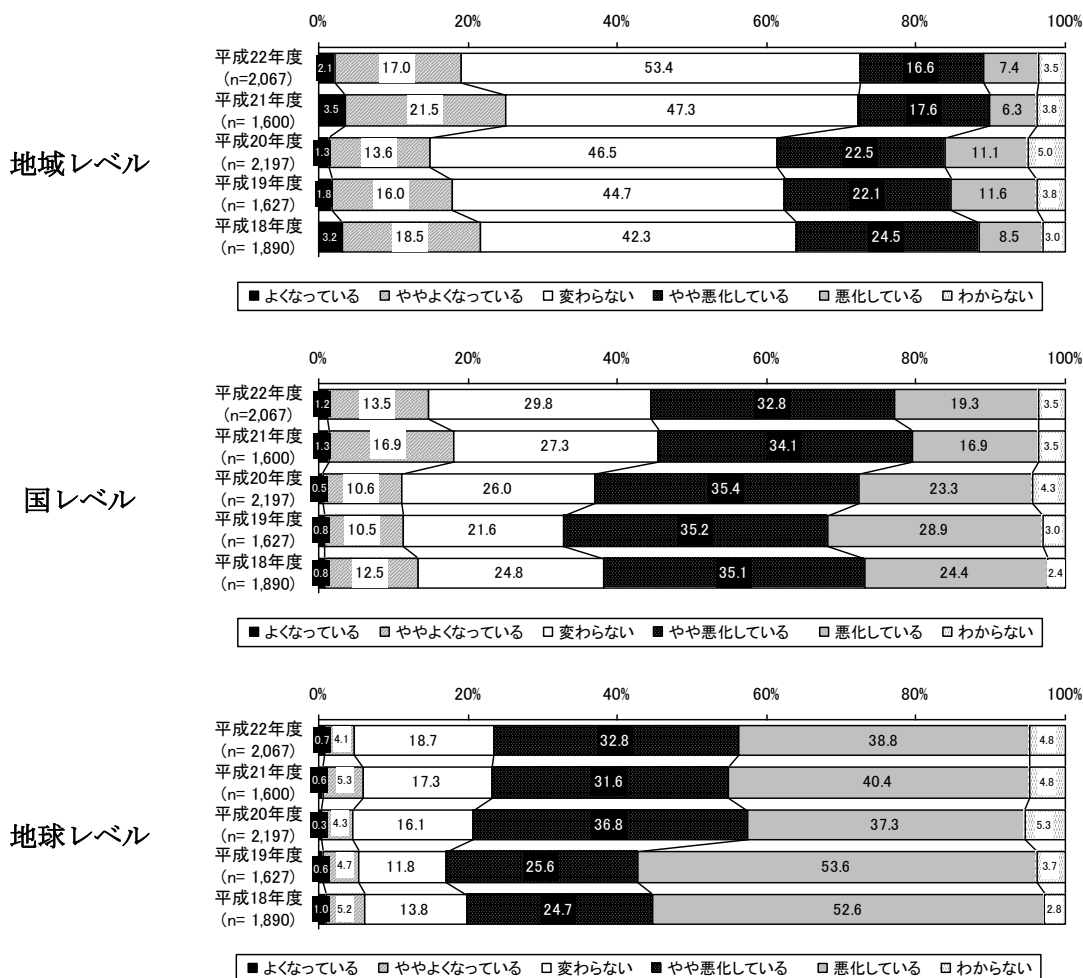
1-1 近年の環境の状況についての実感（問 1-1）

地域レベル、国レベル、地球レベルの全てで環境の状況がよくなっていると実感する割合の減少がみられた。一方、悪化していると実感する割合は大きな変動はみられない。地球レベルでは悪化していると実感する割合が72%と依然として高い。

近年の環境の状況についての実感について尋ねた結果、「よくなっている」と実感している人の割合（「よくなっている」と「ややよくなっている」の合計）は、地域レベルで19%と平成21年度調査よりも約6ポイント低下、国レベルで15%と約4ポイント低下した。

地球レベルでは「悪化している」と実感している人の割合（「悪化している」と「やや悪化している」の合計）が72%と平成21年度調査とほとんど変わらないものの高い割合を示しており、地球レベルでの環境の悪化を問題視していることが想定される。

図表 1-1 近年の環境の状況についての実感



地域レベルの環境の状況についての実感

地域レベルでは53%の人が変わらないと実感している。よくなっていると実感している人は19%、悪化していると実感している人は24%となっている。
属性別では、よくなっていると実感している人の割合が高いのは70代以上(31%)、悪くなっていると実感している人の割合が高いのは農林漁業者(43%)となっている。

地域レベルの環境の状況について「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は19%、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は24%となっている。

性別では、大きな差はみられない。

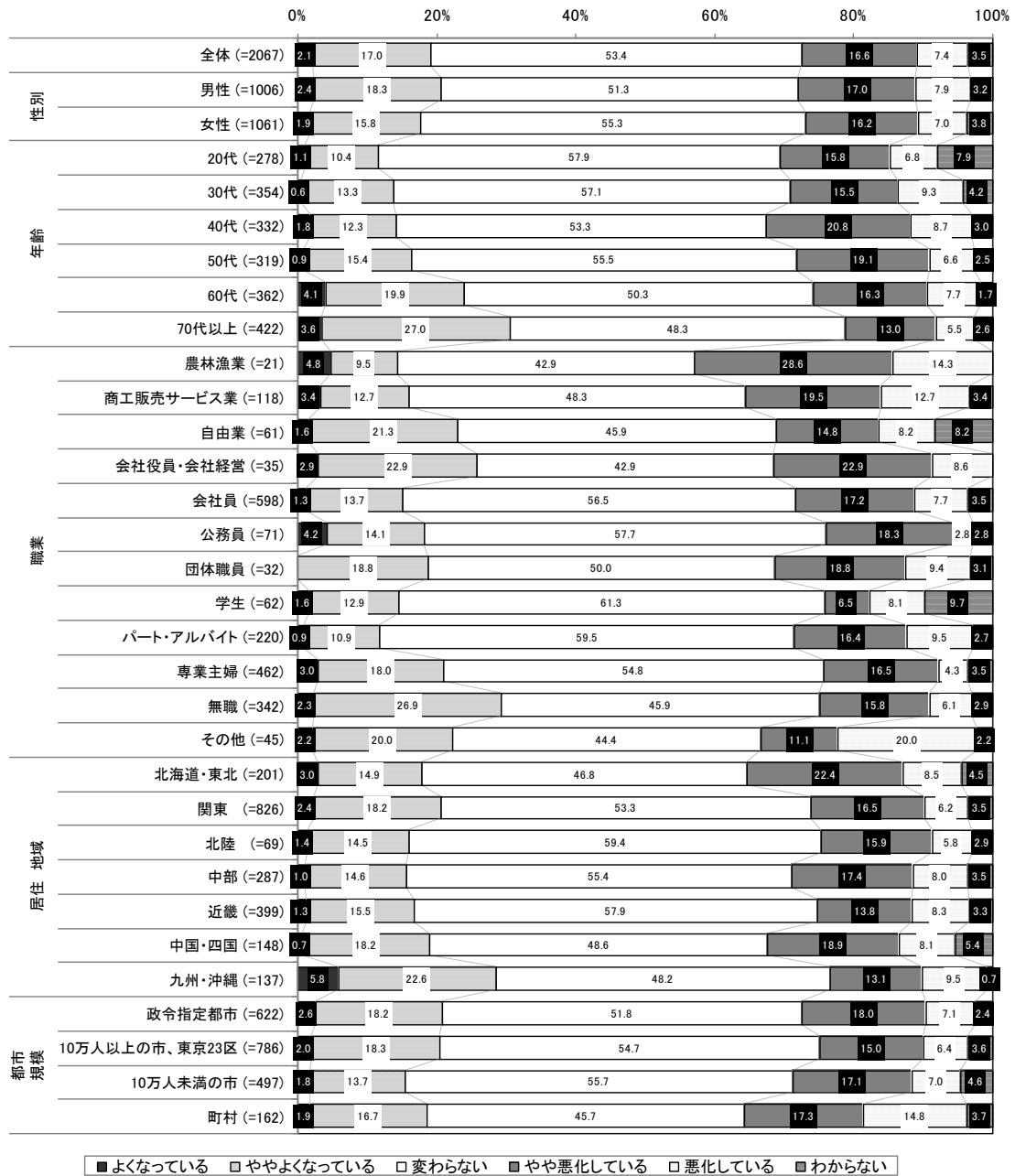
年代別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、20代が12%と低く、年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、70代以上で31%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、40代が30%と最も高く、70代以上が18%と最も低くなっている。

職業別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、「会社役員・会社経営」が26%と高くなっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、「農林漁業」が43%と高くなっている。

地域別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が高いのは、九州・沖縄で28%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している割合が高いのは、北海道・東北で31%となっている。

都市規模別では、政令指定都市、10万人以上の市、特別区では「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感する人の割合が比較的高く、町村では「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合が32%と高くなっている。

図表 1-2 地域レベルの環境の状況についての実感（属性別）



国レベルの環境の状況についての実感

国レベルでは52%の人が悪化していると実感している。よくなっていると実感している人は15%、変わらないと実感している人は30%となっている。
属性別では、よくなっていると実感している人の割合が高いのは九州・沖縄（22%）、悪くなっていると実感している人の割合が高いのはパート・アルバイト者および団体職員（59%）となっている。

国レベルの環境の状況について「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は15%、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は52%となっている。

性別では、男性は「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が比較的大きく（18%）、女性は「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合が比較的大きく（55%）となっている。

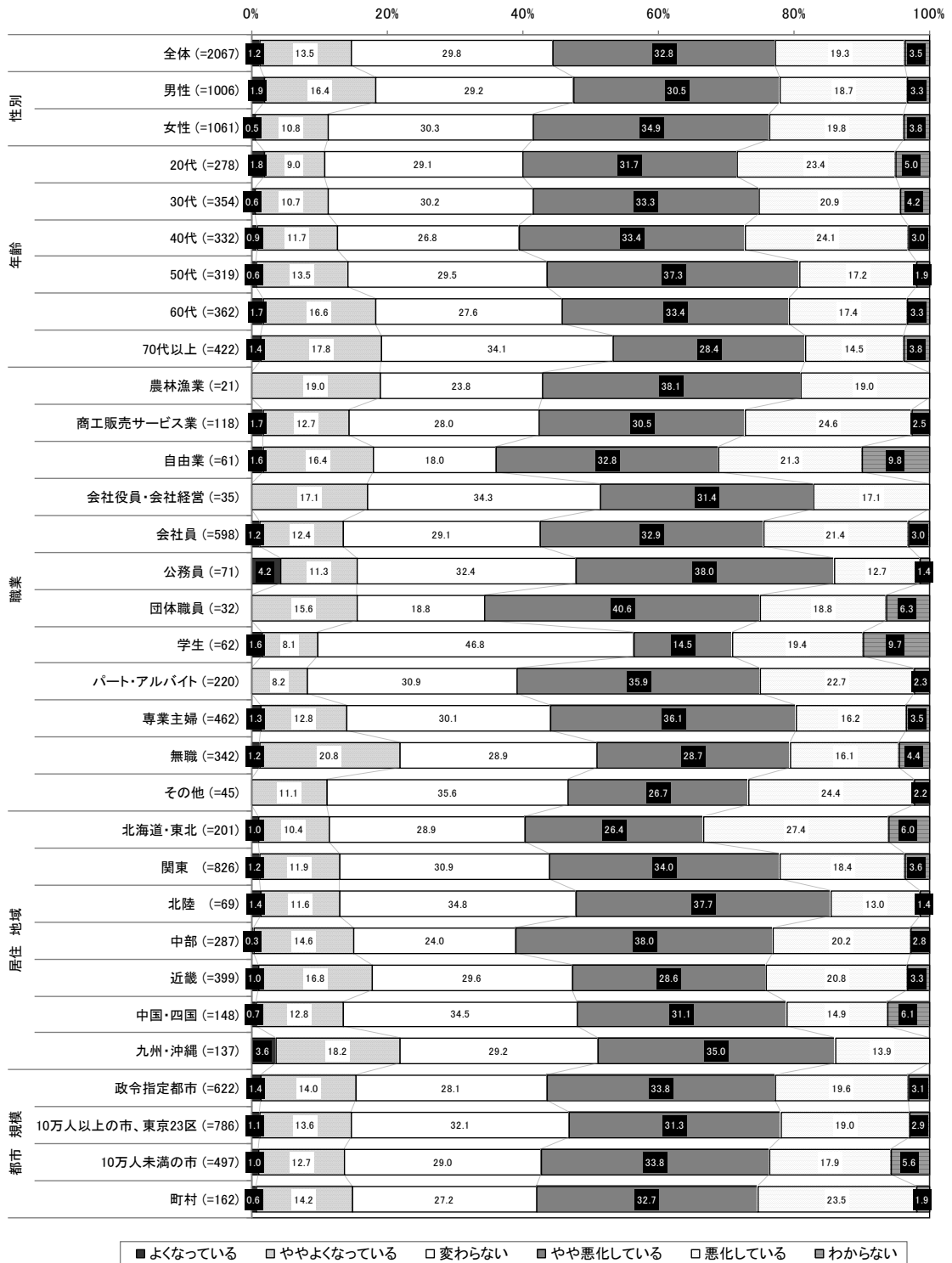
年代別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、20代、30代が11%と低く、年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、70代以上で19%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、40代が58%と最も高く、70代以上が43%と最も低くなっている。

職業別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、「無職」が22%と高くなっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、「パート・アルバイト」および「団体職員」が59%と高くなっている。

地域別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が高いのは、九州・沖縄で22%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している割合が高いのは、中部で58%となっている。

都市規模別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感する人の割合に差はないが、町村では「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合が比較的高くなっている。

図表 1-3 国レベルの環境の状況についての実感（属性別）



地球レベルの環境の状況についての実感

地球レベルでは72%の人が悪化していると実感している。よくなっていると実感している人は5%、変わらないと実感している人は18%となっている。

属性別では、よくなっていると実感している人の割合が高いのは農林漁業者（10%）、悪くなっていると実感している人の割合が高いのは団体職員（88%）となっている。

地球レベルの環境の状況について「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は5%、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は72%となっている。

性別では、大きな差はみられない。

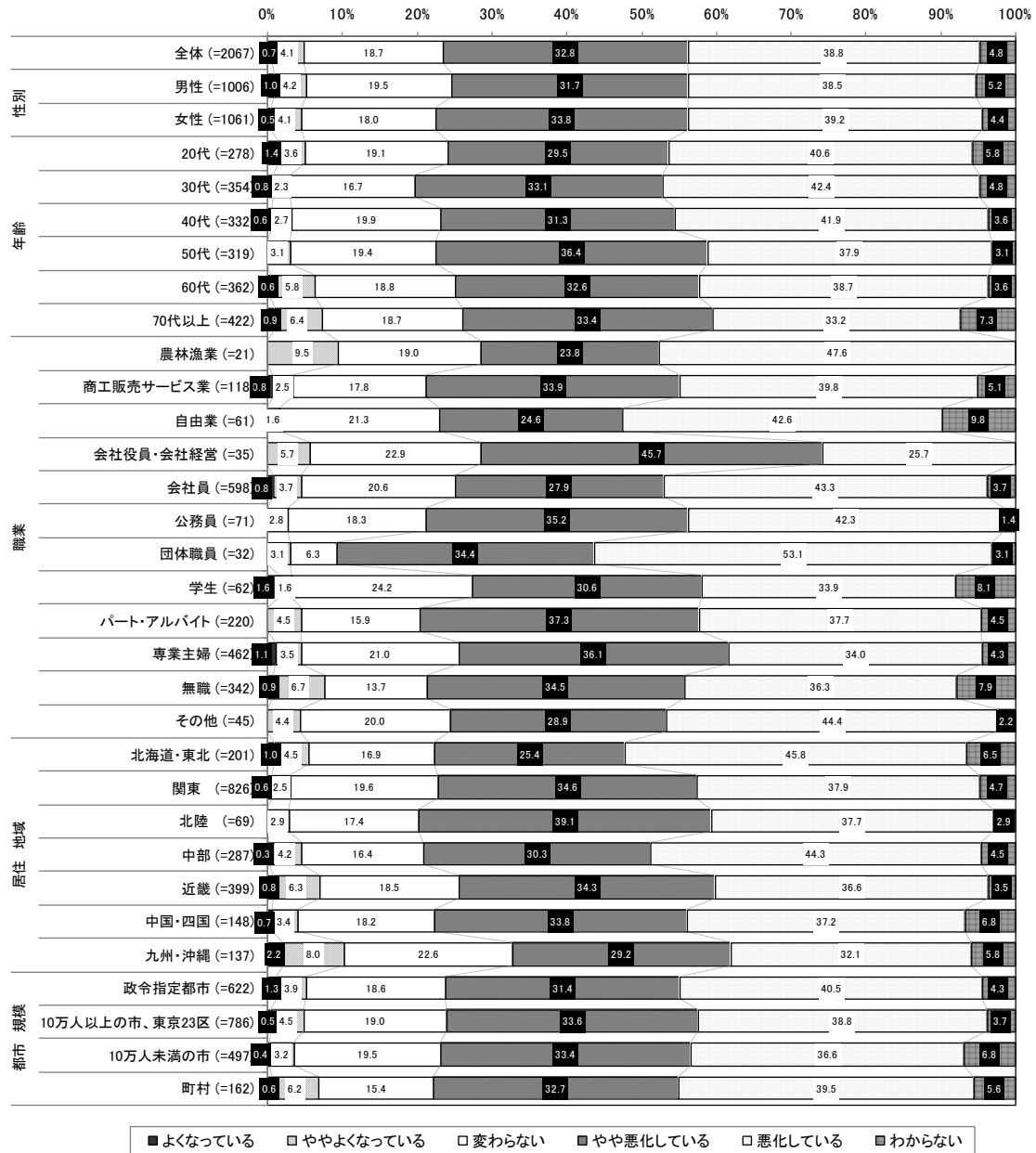
年代別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、30代、40代および50代が3%と低く、70代以上で7%と比較的高くなっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、30代が75%と最も高く、70代以上が67%と最も低くなっている。

職業別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、「農林漁業」が10%と高くなっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、「団体職員」が88%と高くなっている。

地域別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が高いのは、九州・沖縄で10%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している割合が高いのは、北陸で77%となっている。

都市規模別では、大きな差はみられないが、町村では「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が比較的高くなっている。

図表 1-4 地球レベルの環境の状況についての実感（属性別）



1-2 近年の環境改善を実感する理由（問 1-2）

環境改善を実感する理由は、各レベル以下の回答が多かった。

- ・ 地域レベルでは、廃棄物の発生抑制および廃棄物の適正処理が成果を上げている。
- ・ 国レベルでは、大気汚染対策が成果を上げている。
- ・ 地球レベルでは、地球温暖化対策および野生生物や希少な動植物の保護対策が成果を上げている。

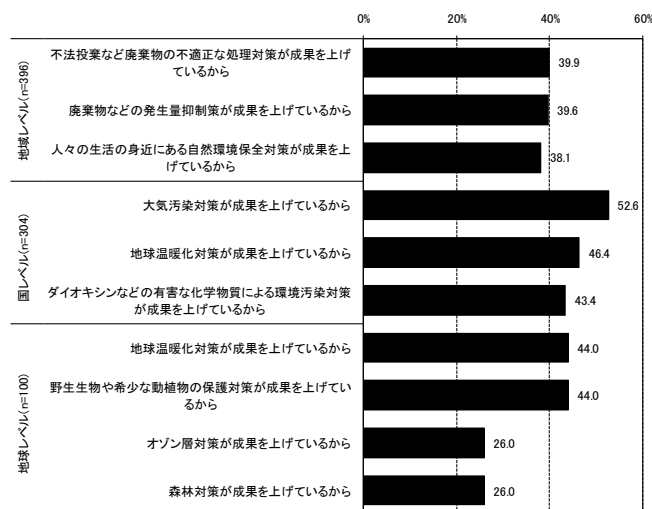
近年の環境の状況についての実感について「よくなっている」、「ややよくなっている」と回答した人に、地域レベル、国レベル、地球レベルに分けて環境改善を実感する理由を尋ねた。

地域レベルでは、「廃棄物などの発生量抑制策が成果を上げているから」および「不法投棄など廃棄物の不適正な処理対策が成果を上げているから」が 40%と最も割合が高く、次いで「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」（38%）となっている。

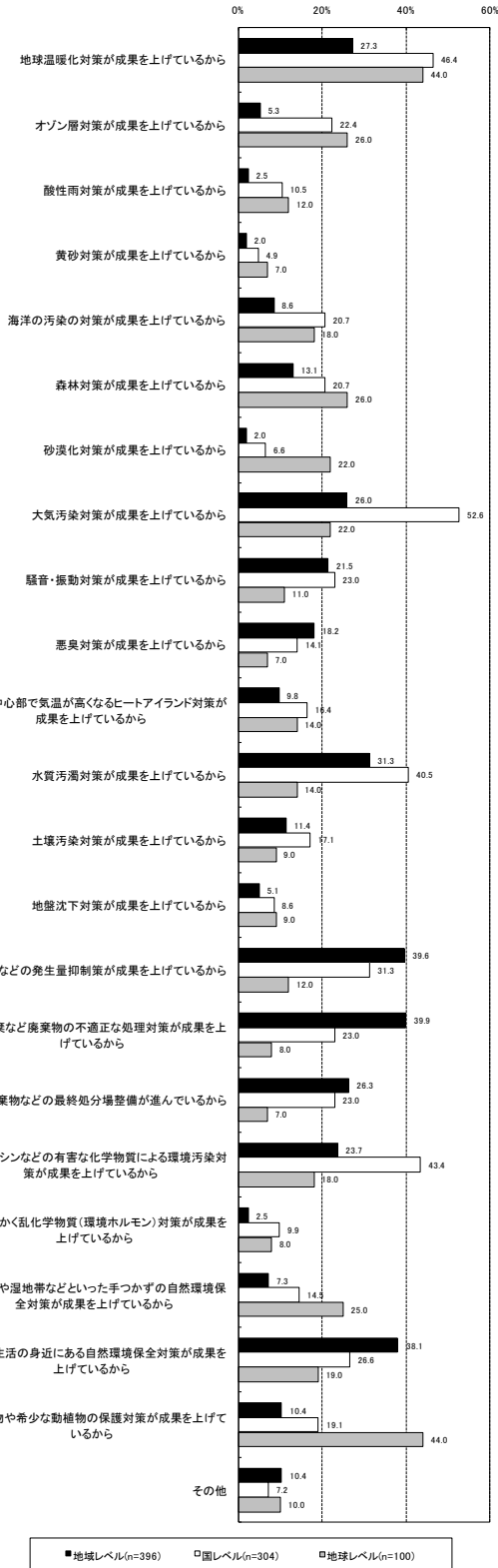
国レベルでは、「大気汚染対策が成果を上げているから」が 53%と最も割合が高く、次いで、「地球温暖化対策が成果を上げているから」（46%）、「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染対策が成果を上げているから」（43%）となっている。

地球レベルでは、「地球温暖化対策が成果を上げているから」および「野生生物や希少な動植物の保護対策が成果を上げているから」が 44%と最も割合が高く、次いで「森林対策が成果を上げているから」および「オゾン層対策が成果を上げているから」（26%）となっている。

図表 1-5 近年の環境環境改善を実感する理由（各レベル別上位 3 項目）



図表 1-6 近年の環境環境改善を実感する理由



地域レベルの環境改善を実感する理由

地域レベルの環境の状況についての実感について「よくなっている」、「ややよくなっている」と回答した人に、環境改善を実感する理由を尋ねたところ、「廃棄物などの発生量抑制策が成果を上げているから」および「不法投棄など廃棄物の不適正な処理対策が成果を上げているから」が40%と最も割合が高く、次いで「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」(38%)、「水質汚濁対策が成果を上げているから」(31%)となっている。

性別でみると、「大気汚染が進んでいるから」については、男性が女性よりも10ポイント以上高くなっている(男性32%、女性19%)。「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」では女性が男性よりも10ポイント以上高くなっている(男性32%、女性45%)。

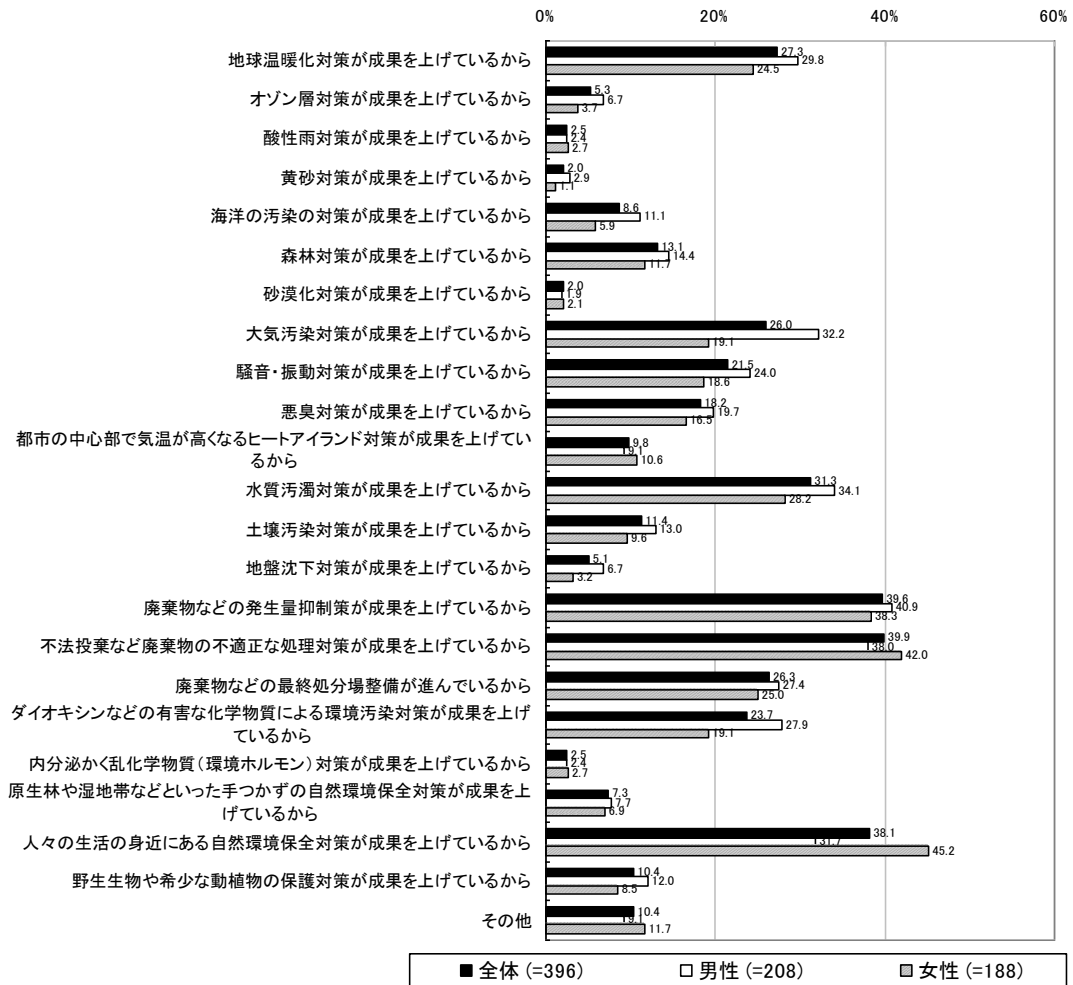
年代別では、多くの項目で70代以上の割合が高くなっている。「水質汚濁対策が成果を上げているから」、「廃棄物などの発生量抑制策が成果を上げているから」では、20代ではそれぞれ16%、9%なのに対して、70代以上では44%、53%となっている。

職業別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

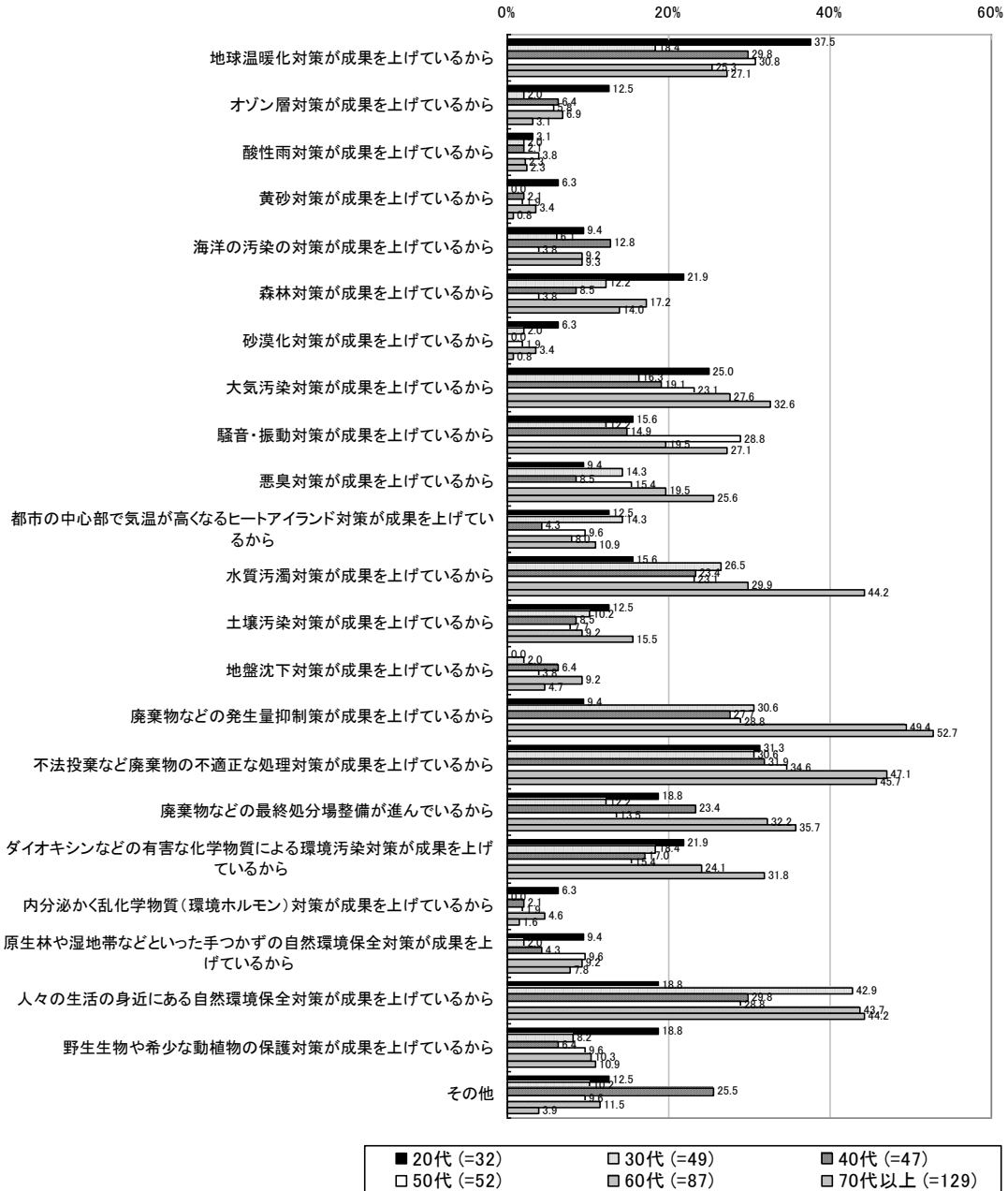
地域別では、特に「水質汚濁対策が成果を上げているから」については、中部では22%に対して、九州・沖縄では50%と、25ポイント以上高くなっている。同様に「地球温暖化対策が成果を上げているから」についても、北陸の45%に対して中国・四国では18%と、25ポイント以上の差がついている。

都市規模別では、町村で「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」が50%と他の都市規模と比べて高くなっている。

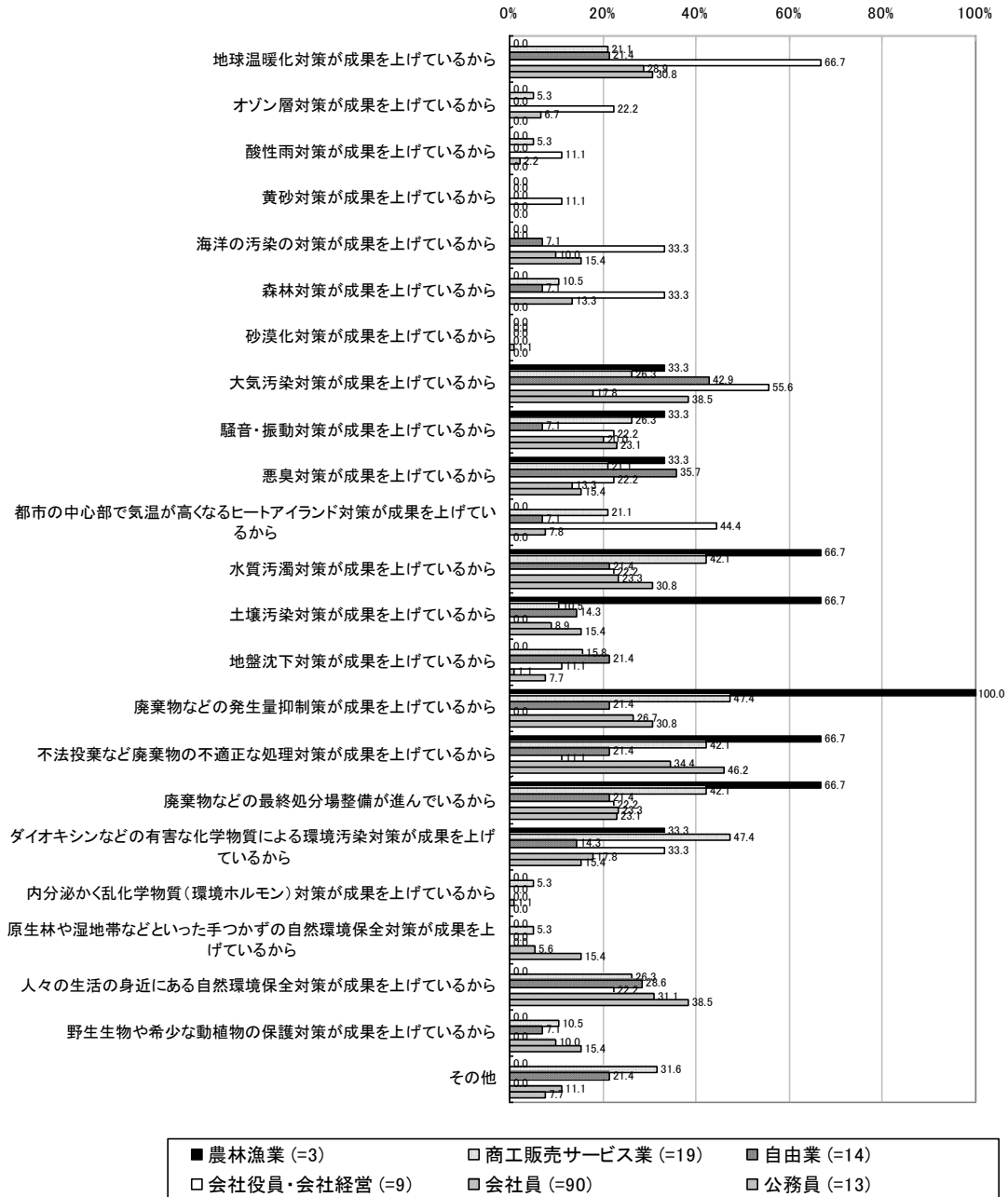
図表 1-7 地域レベルの環境改善を実感する理由（全体、性別）



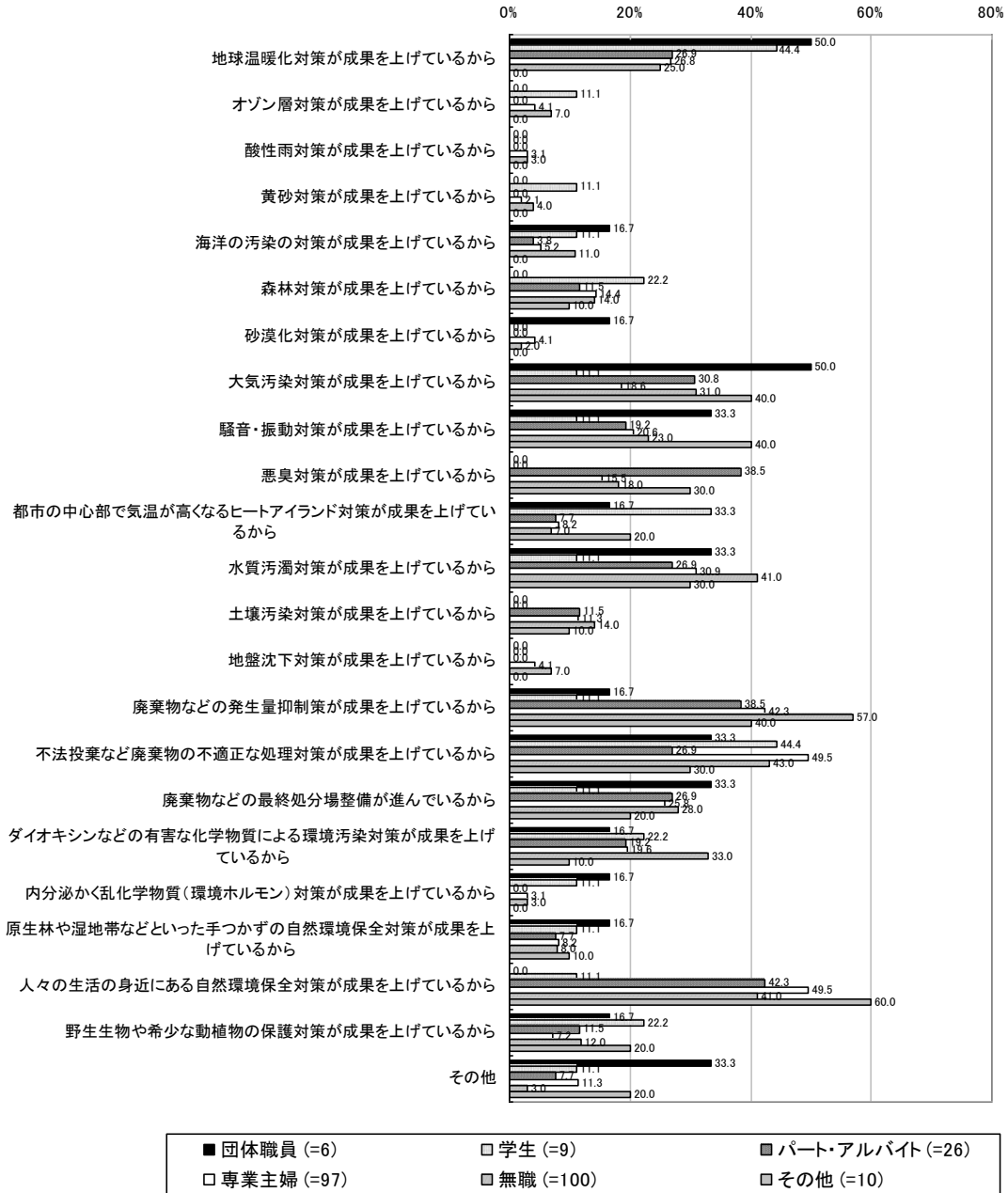
図表 1-8 地域レベルの環境改善を実感する理由（年代別）



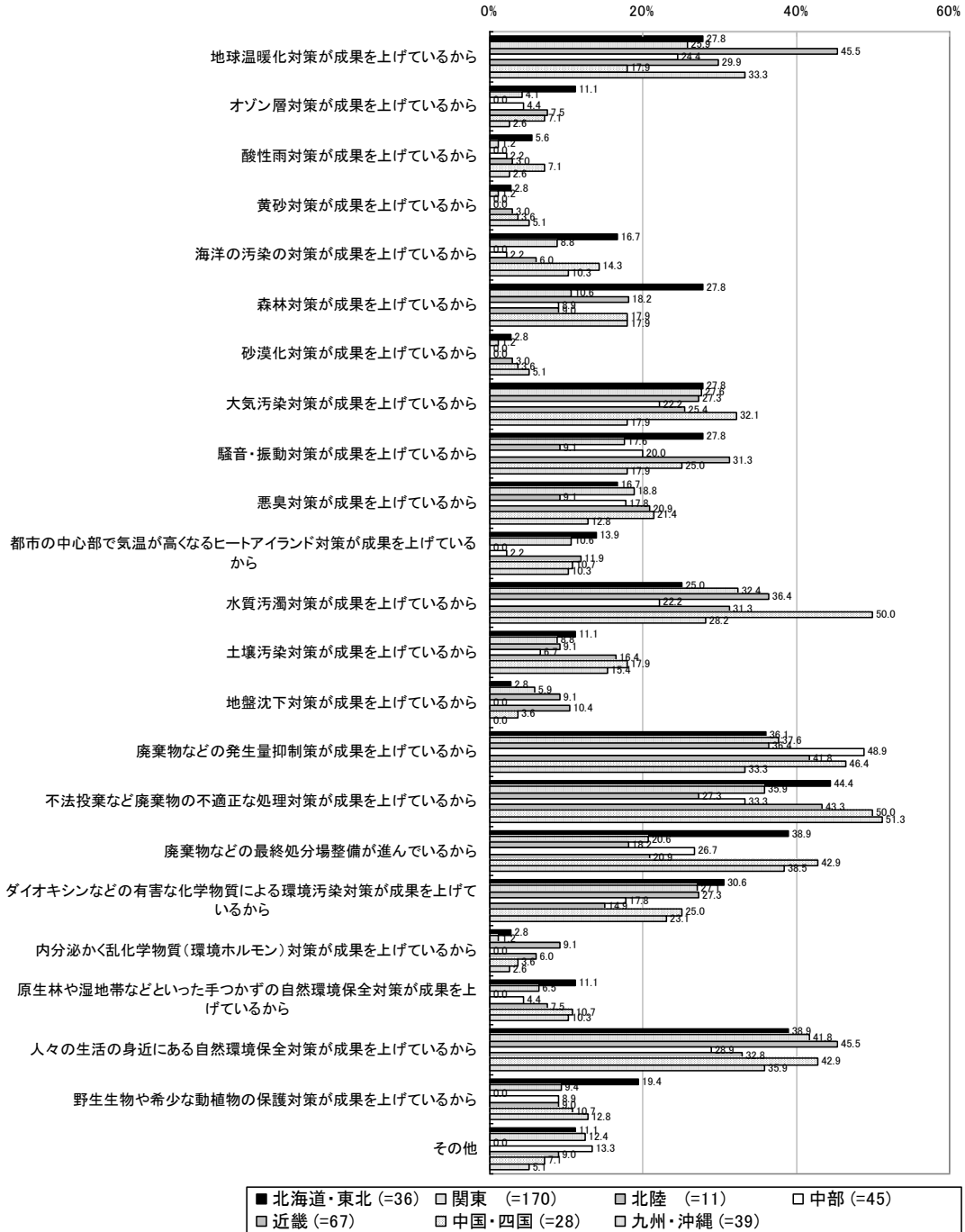
図表 1-9 地域レベルの環境改善を実感する理由（職業別 1/2）



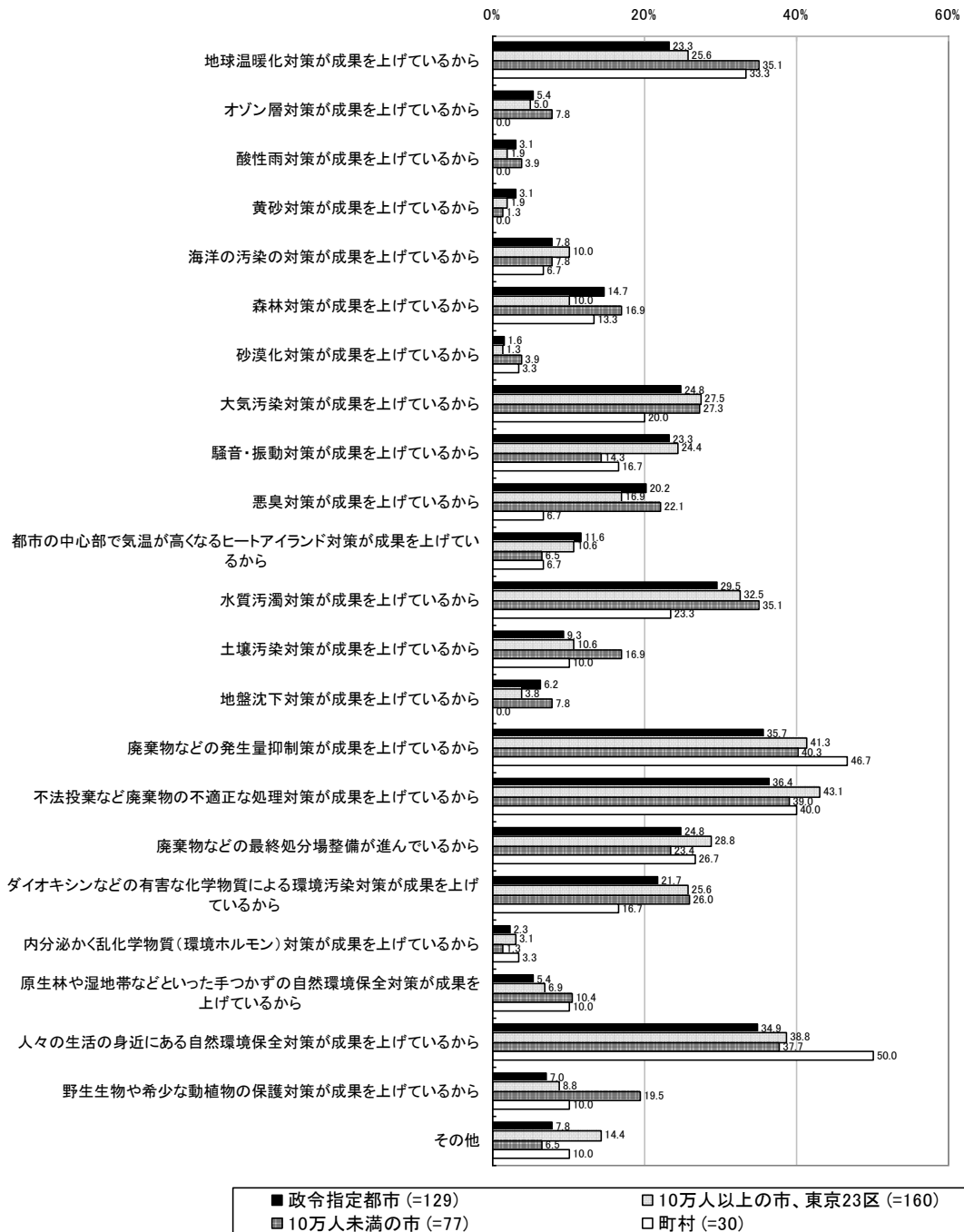
図表 1-10 地域レベルの環境改善を実感する理由（職業別 2/2）



図表 1-11 地域レベルの環境改善を実感する理由（地域別）



図表 1-12 地域レベルの環境改善を実感する理由（都市規模別）



国レベルの環境改善を実感する理由

国レベルの環境の状況についての実感について「よくなっている」、「ややよくなっている」と回答した人に、環境改善を実感する理由を尋ねたところ、「大気汚染対策が成果を上げているから」が53%と最も割合が高く、次いで、「地球温暖化対策が成果を上げているから」(46%)、「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染対策が成果を上げているから」(43%)となっている。

性別でみると、「大気汚染が進んでいるから」については、男性が女性よりも10ポイント以上高くなっている(男性58%、女性44%)。「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」では女性が男性よりも高くなっている(男性32%、女性40%)。

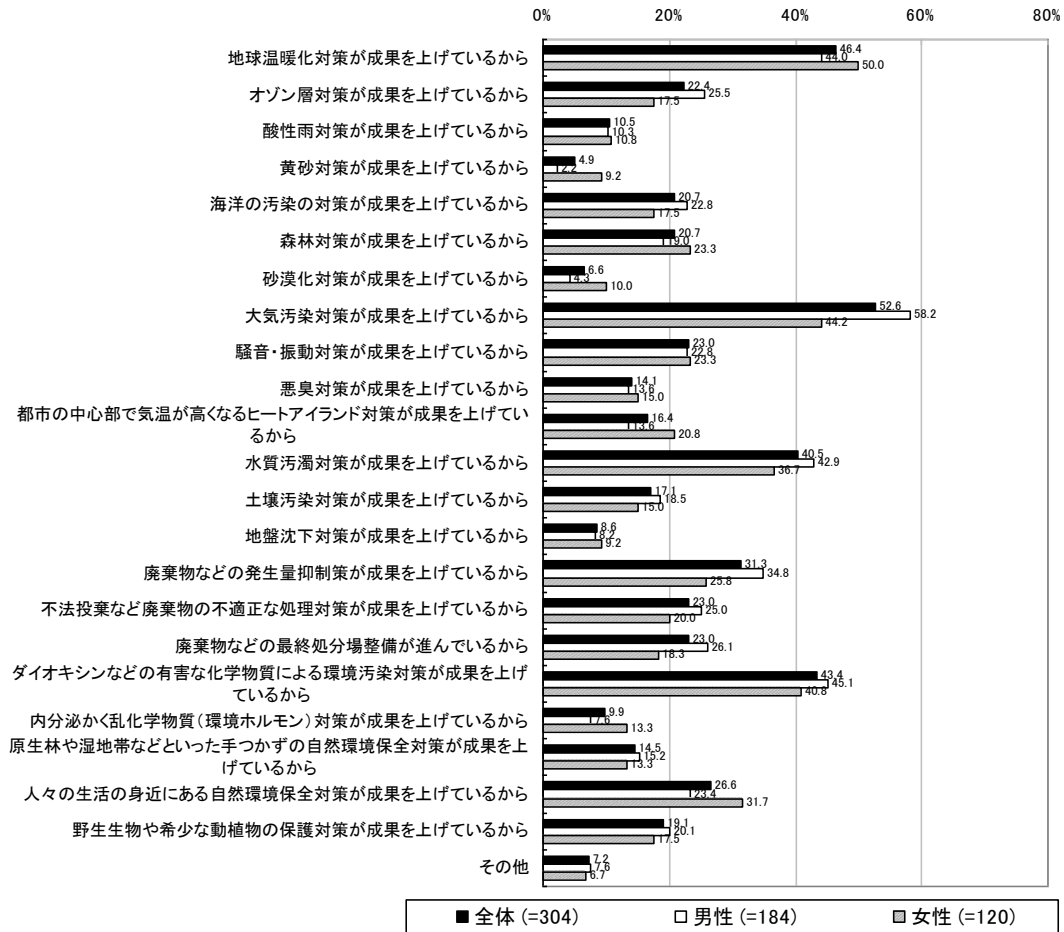
年代別では、多くの項目で70代以上の割合が高くなっている。「大気汚染対策が成果を上げているから」については、20代では30%なのに対して、70代以上では65%と高くなっている。

職業別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

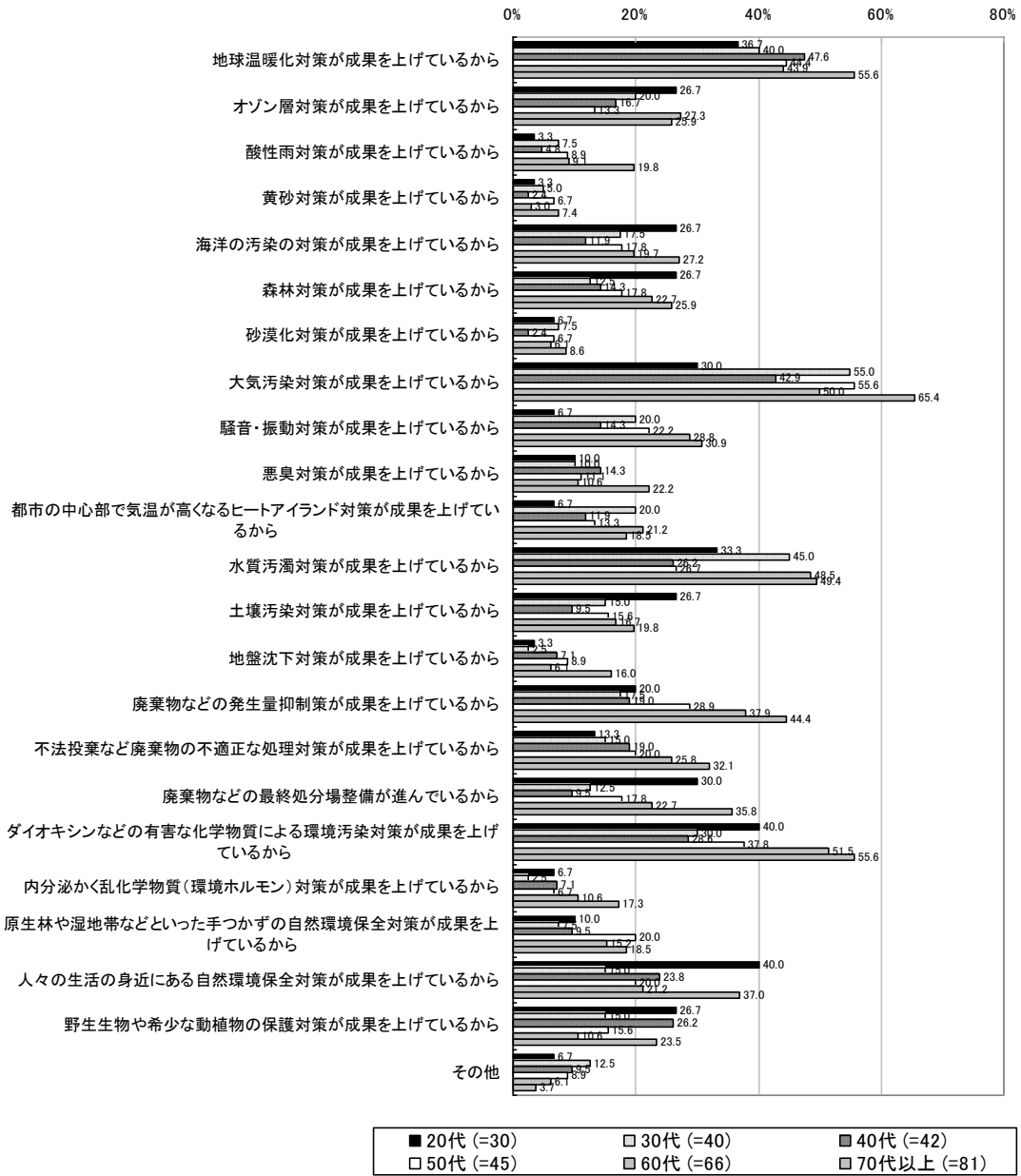
地域別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

都市規模別では、町村で多くの項目で全体よりも高い傾向がみられる。また、特に「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染対策が成果を上げているから」、「廃棄物などの発生量抑制策が成果を上げているから」、「土壌汚染対策が成果を上げているから」で他の都市規模と比べて高くなっている。

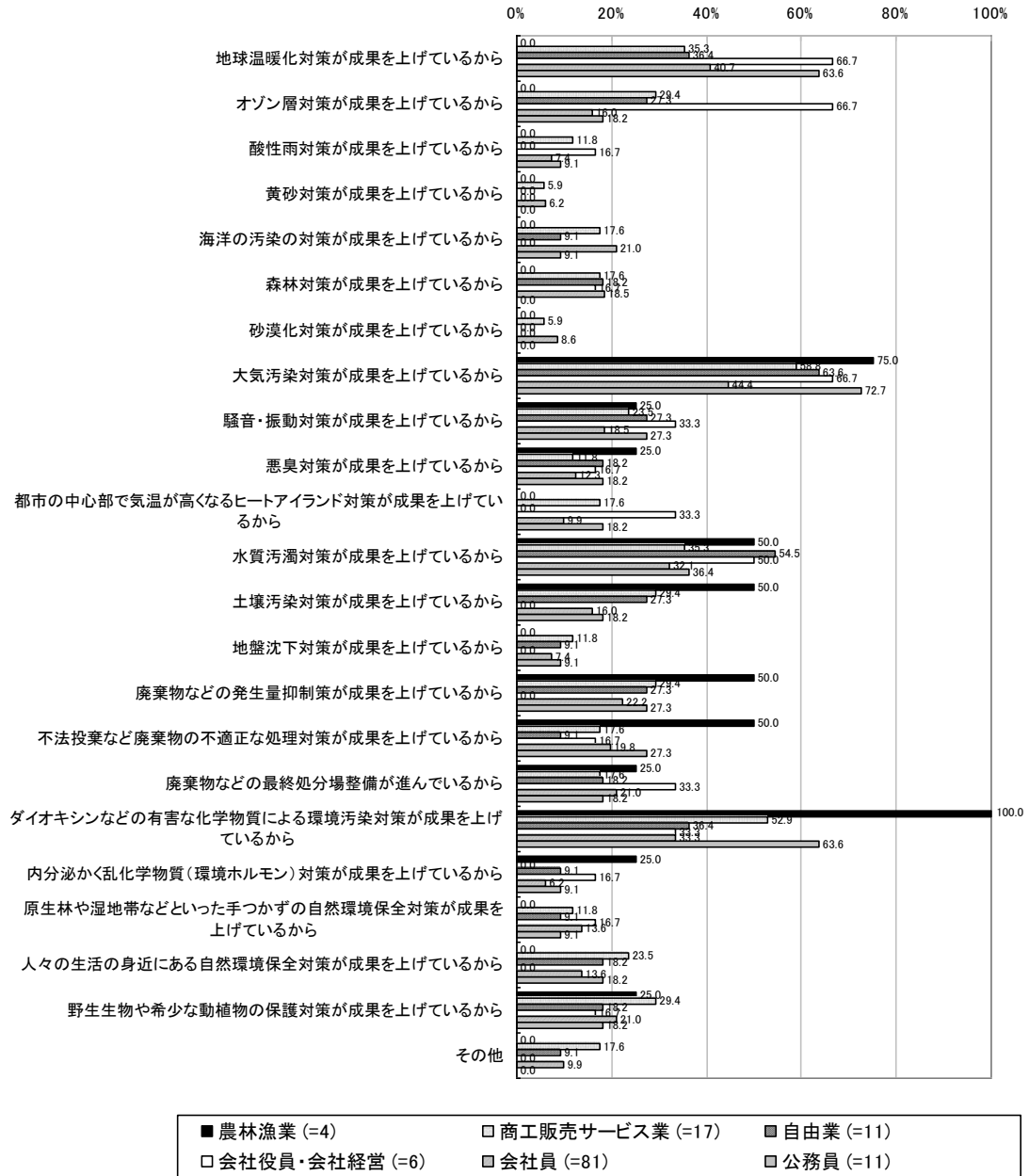
図表 1-13 国レベルの環境改善を実感する理由（全体、性別）



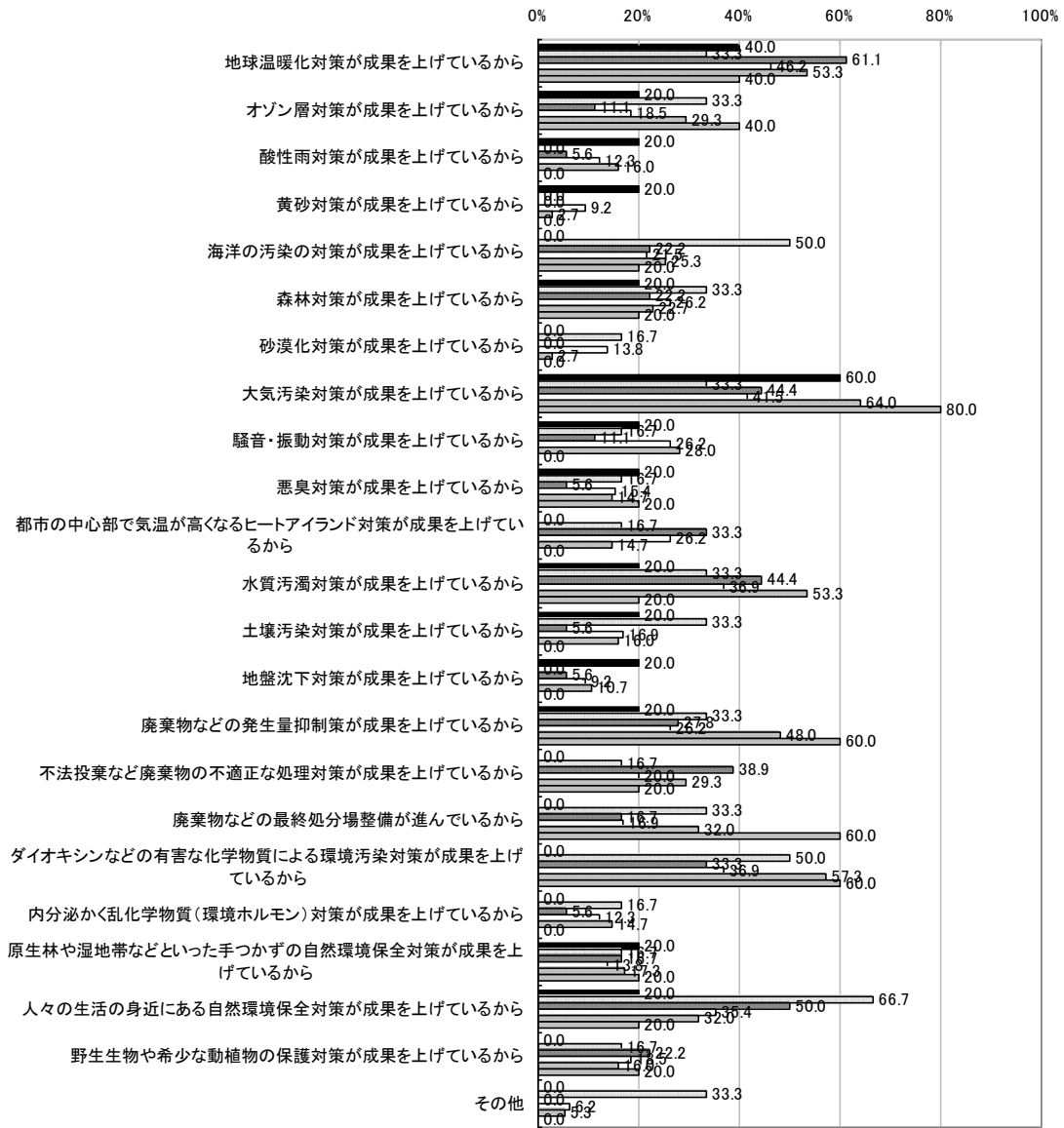
図表 1-14 国レベルの環境改善を実感する理由（年代別）



図表 1-15 国レベルの環境改善を実感する理由（職業別 1/2）

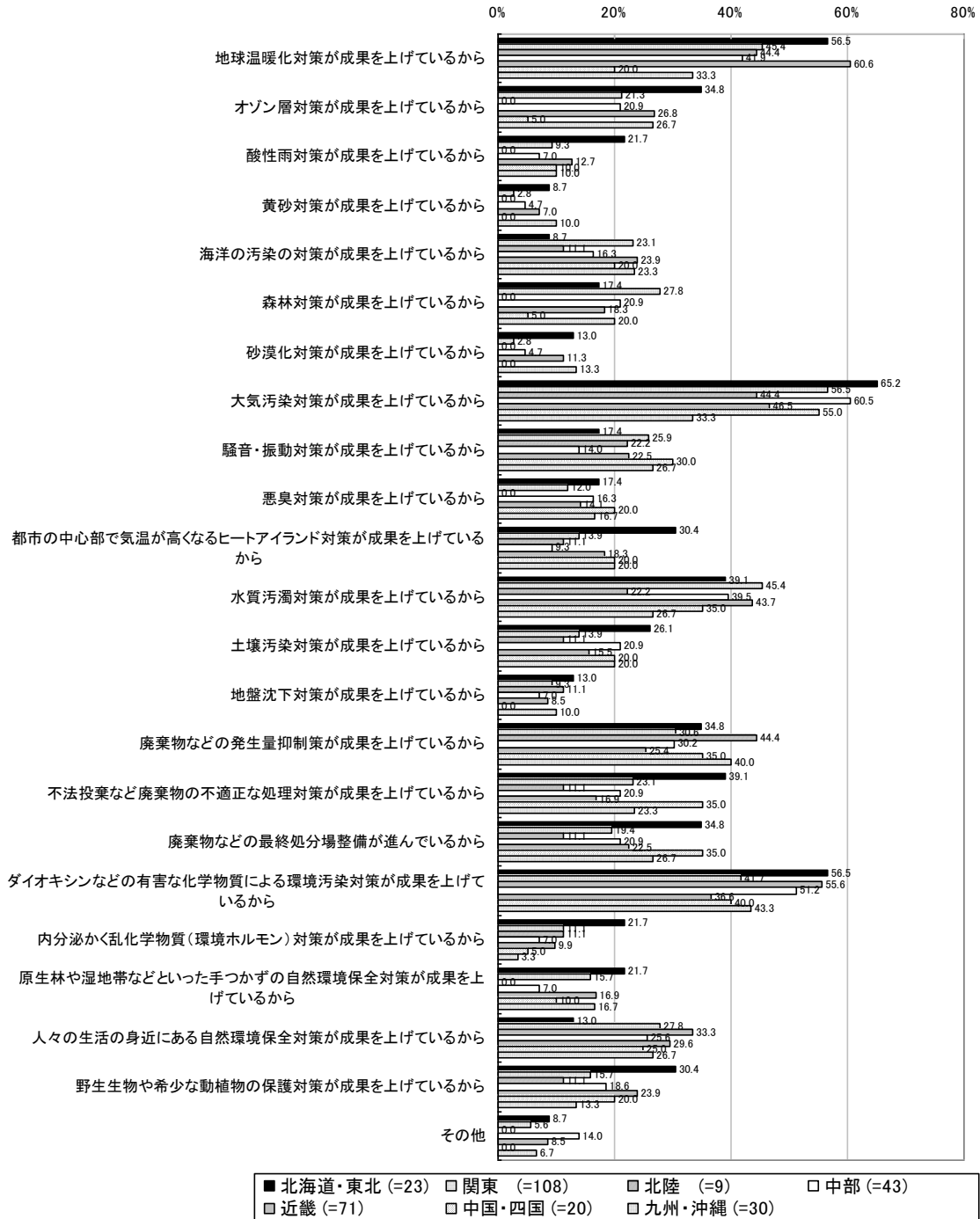


図表 1-16 国レベルの環境改善を実感する理由（職業別 2/2）

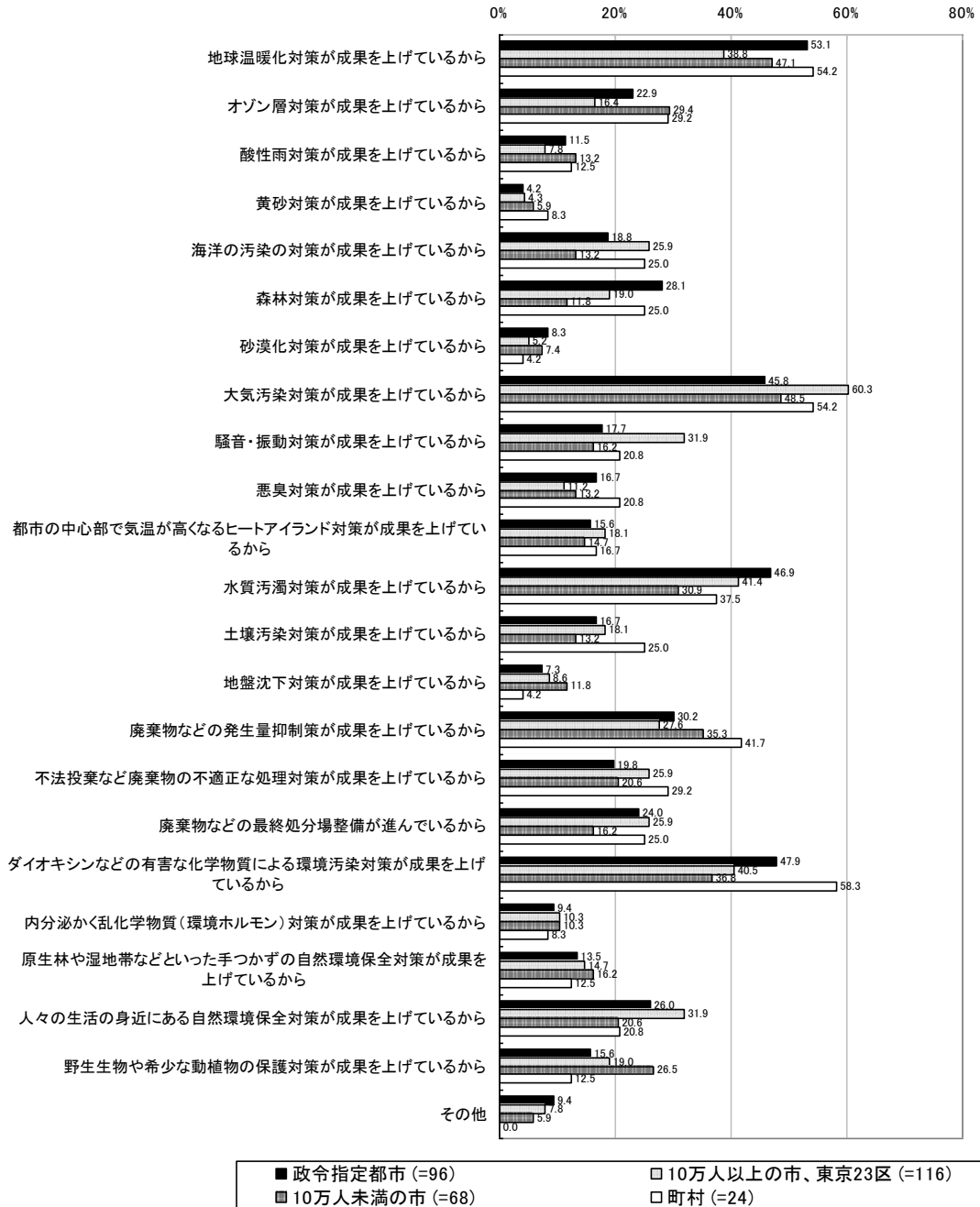


■ 団体制員 (=5) □ 学生 (=6) ■ パート・アルバイト (=18) □ 専業主婦 (=65) □ 無職 (=75) □ その他 (=5)

図表 1-17 国レベルの環境改善を実感する理由（地域別）



図表 1-18 国レベルの環境改善を実感する理由（都市規模別）



地球レベルの環境改善を実感する理由

地球レベルの環境の状況についての実感について「よくなっている」、「ややよくなっている」と回答した人に、環境改善を実感する理由を尋ねたところ、地球温暖化対策が成果を上げているから」および「野生生物や希少な動植物の保護対策が成果を上げているから」が 44%と最も割合が高く、次いで「森林対策が成果を上げているから」および「オゾン層対策が成果を上げているから」(26%)となっている。

性別でみると、男性が女性よりも 10 ポイント以上高くなっている項目が多くなっている。特に、「原生林や湿地帯などといった手つかずの自然環境保全対策が成果を上げているから」については、男性が女性よりも 15 ポイント以上高くなっている（男性 33%、女性 17%）。「野生生物や希少な動植物の保護対策が成果を上げているから」では女性が男性よりも 10 ポイント以上高くなっている（男性 38%、女性 50%）。

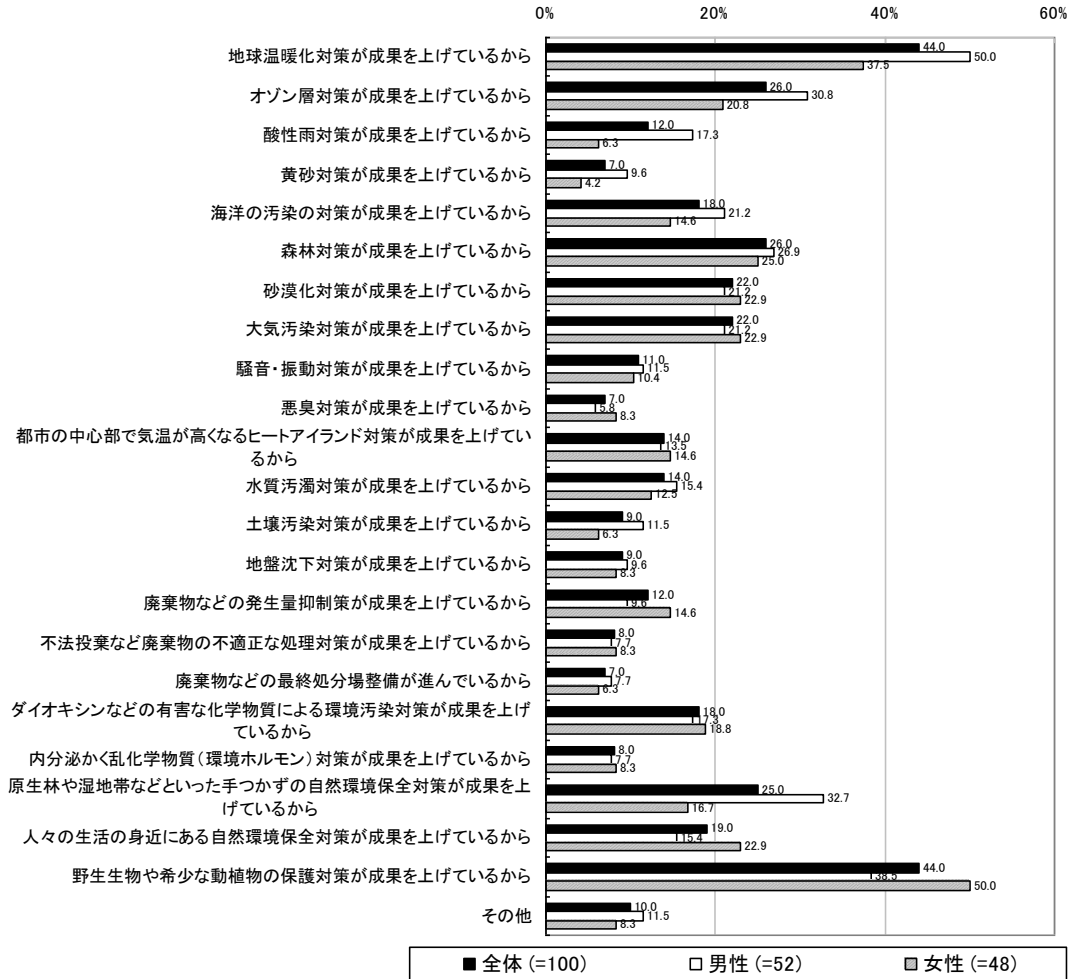
年代別では、年代間でのばらつきが大きくなっているが、「地球温暖化対策が成果を上げているから」については、全年代で高くなっている。「野生生物や希少な動植物の保護対策が成果を上げているから」については、70 代以上では 58%と最も高くなっているが、20 代では 21%、30 代では 0%となっている。

職業別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

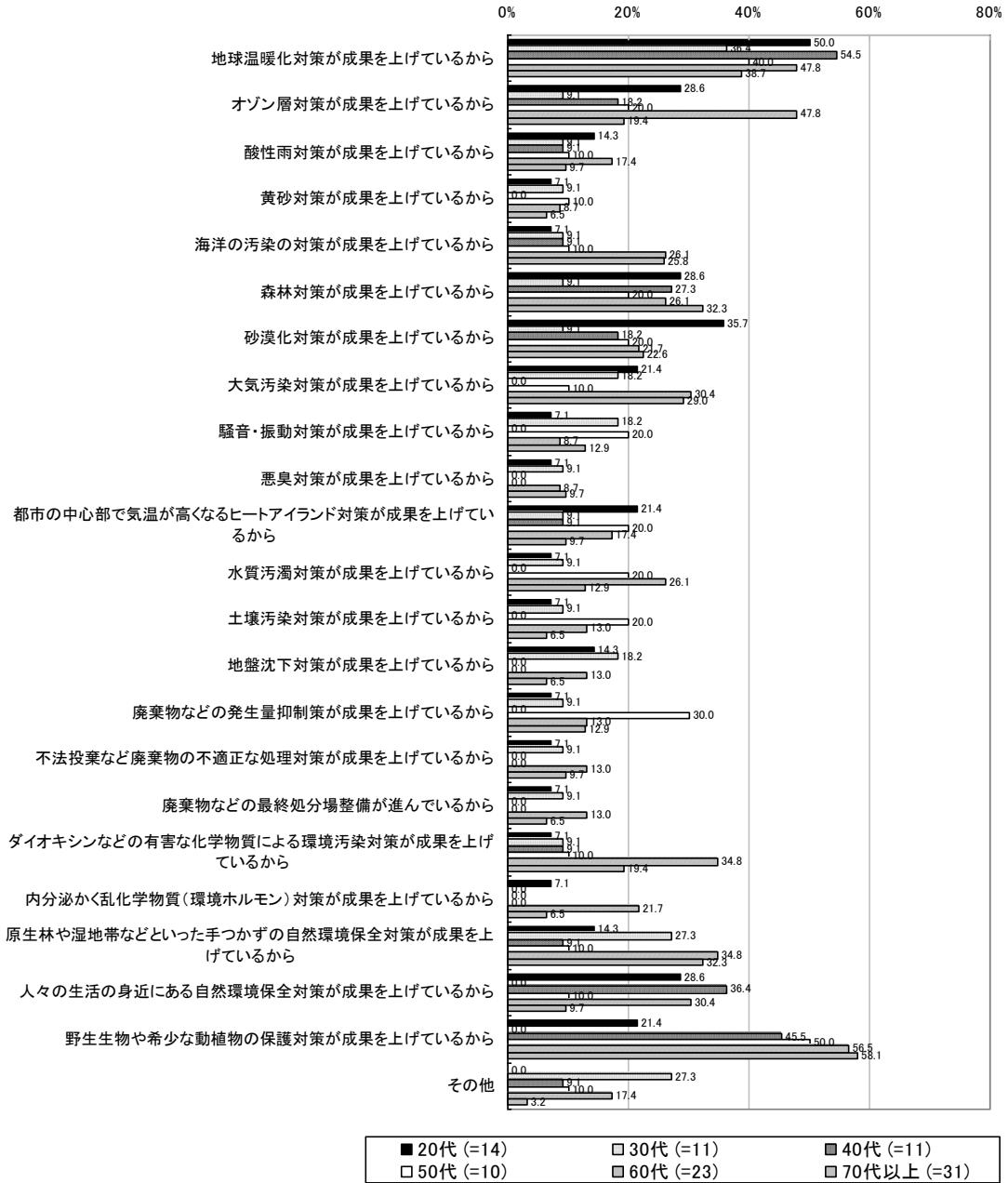
地域別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

都市規模別では、町村では「不法投棄など廃棄物の不適正な処理対策が成果を上げているから」が他の都市規模と比べて高くなっている。政令指定都市では、「地球温暖化対策が成果を上げているから」が他の都市規模と比べて高くなっている。

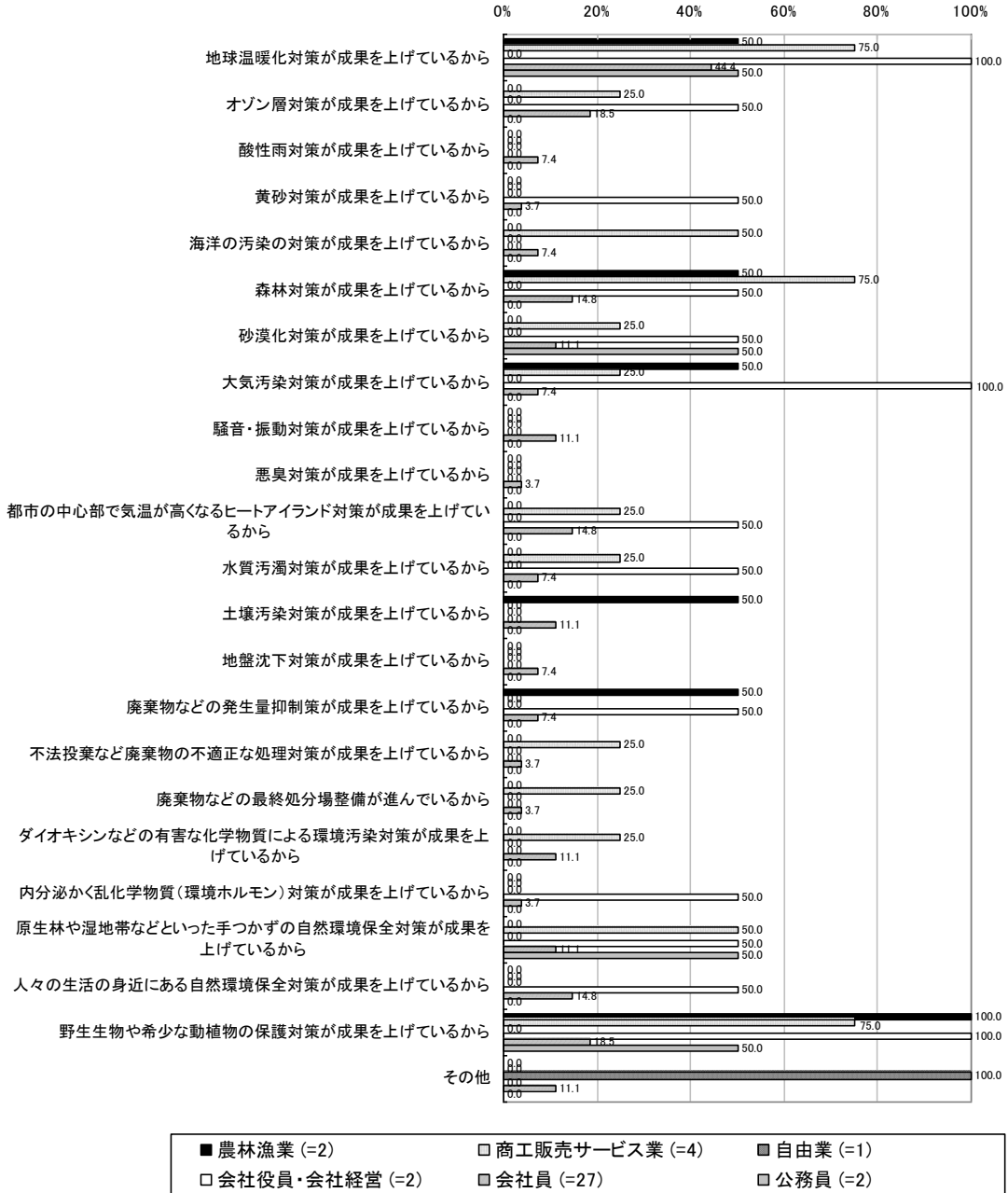
図表 1-19 地球レベルの環境改善を実感する理由（全体、性別）



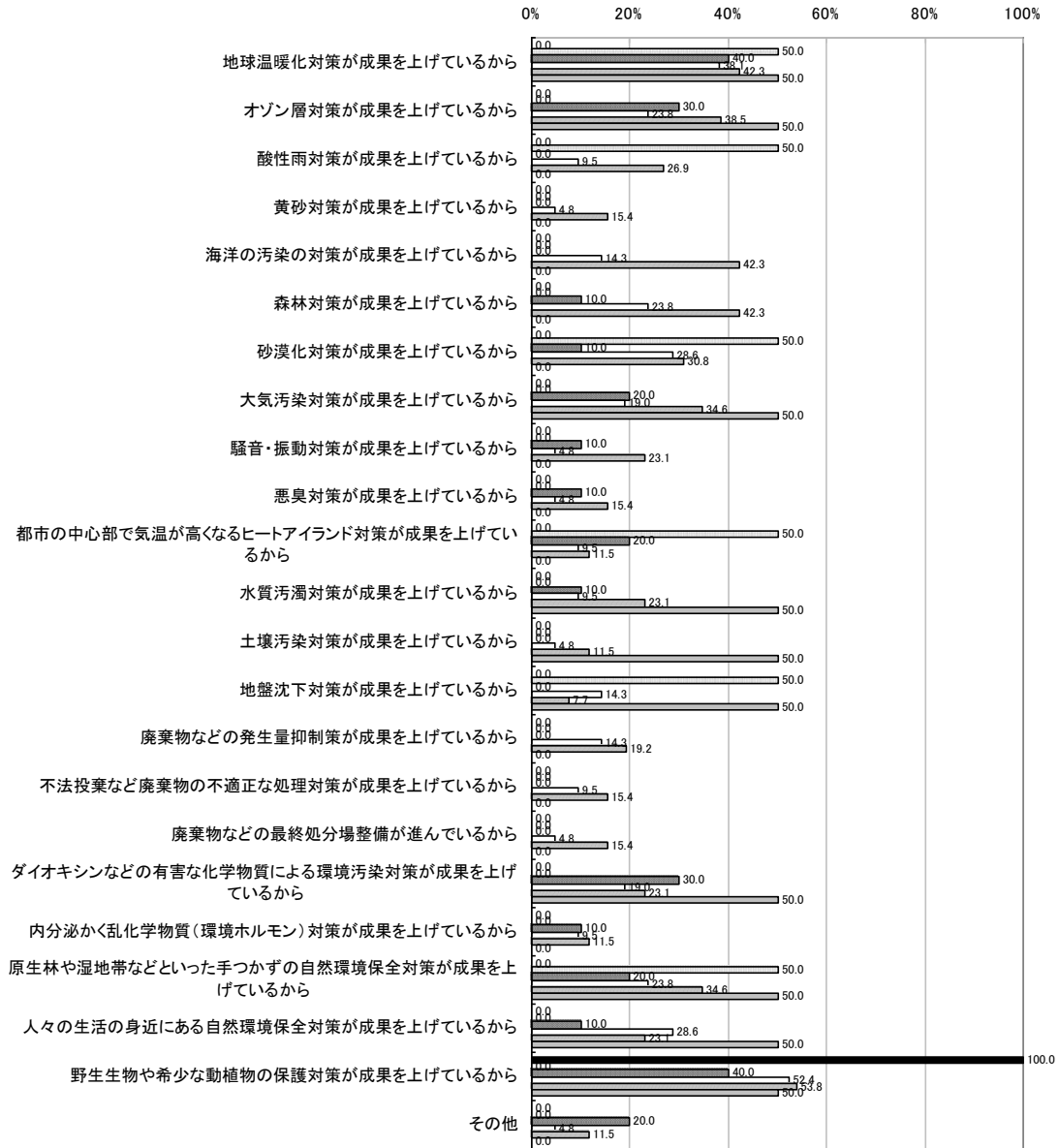
図表 1-20 地球レベルの環境改善を実感する理由（年代別）



図表 1-21 地球レベルの環境改善を実感する理由（職業別 1/2）

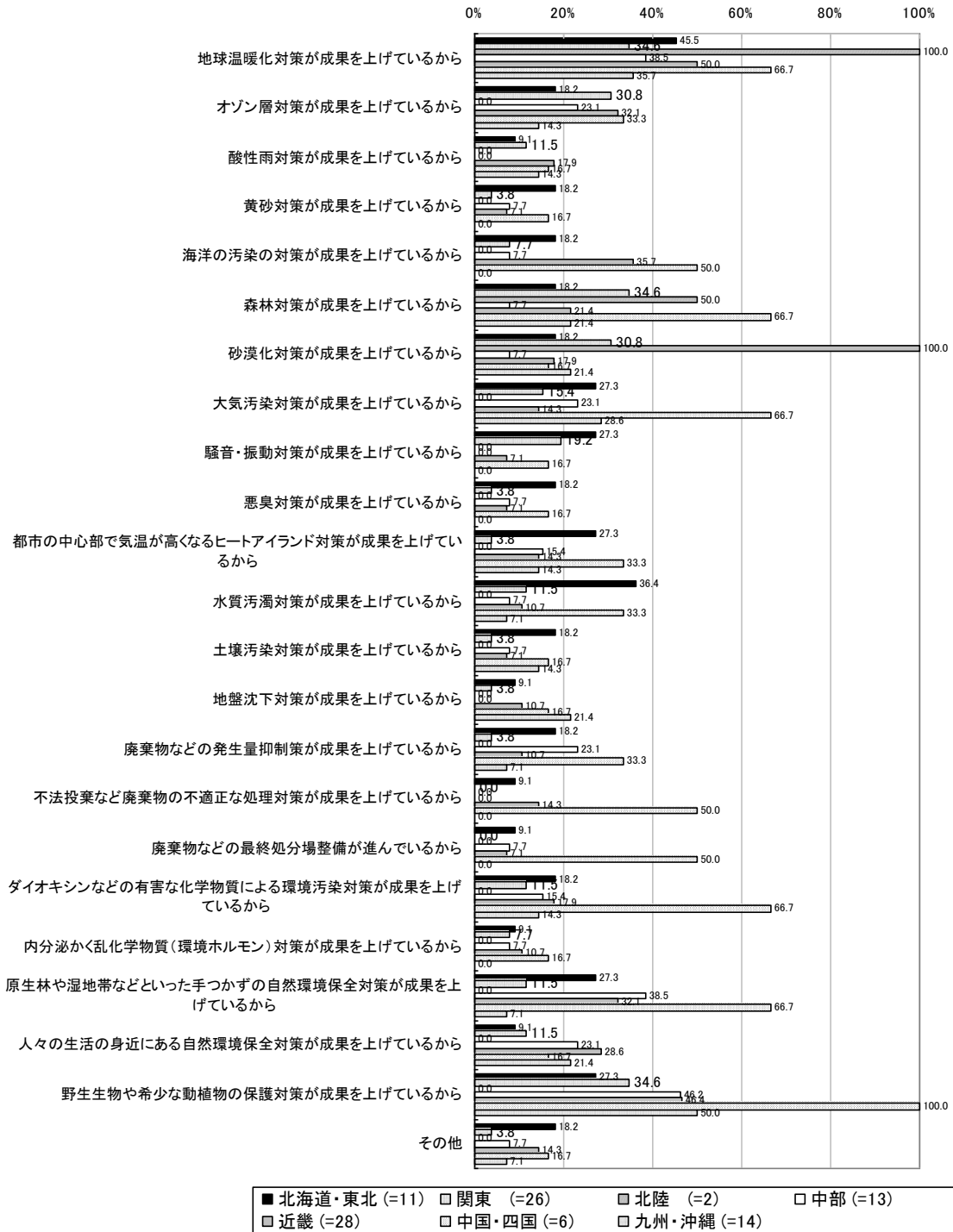


図表 1-22 地球レベルの環境改善を実感する理由（職業別 2/2）

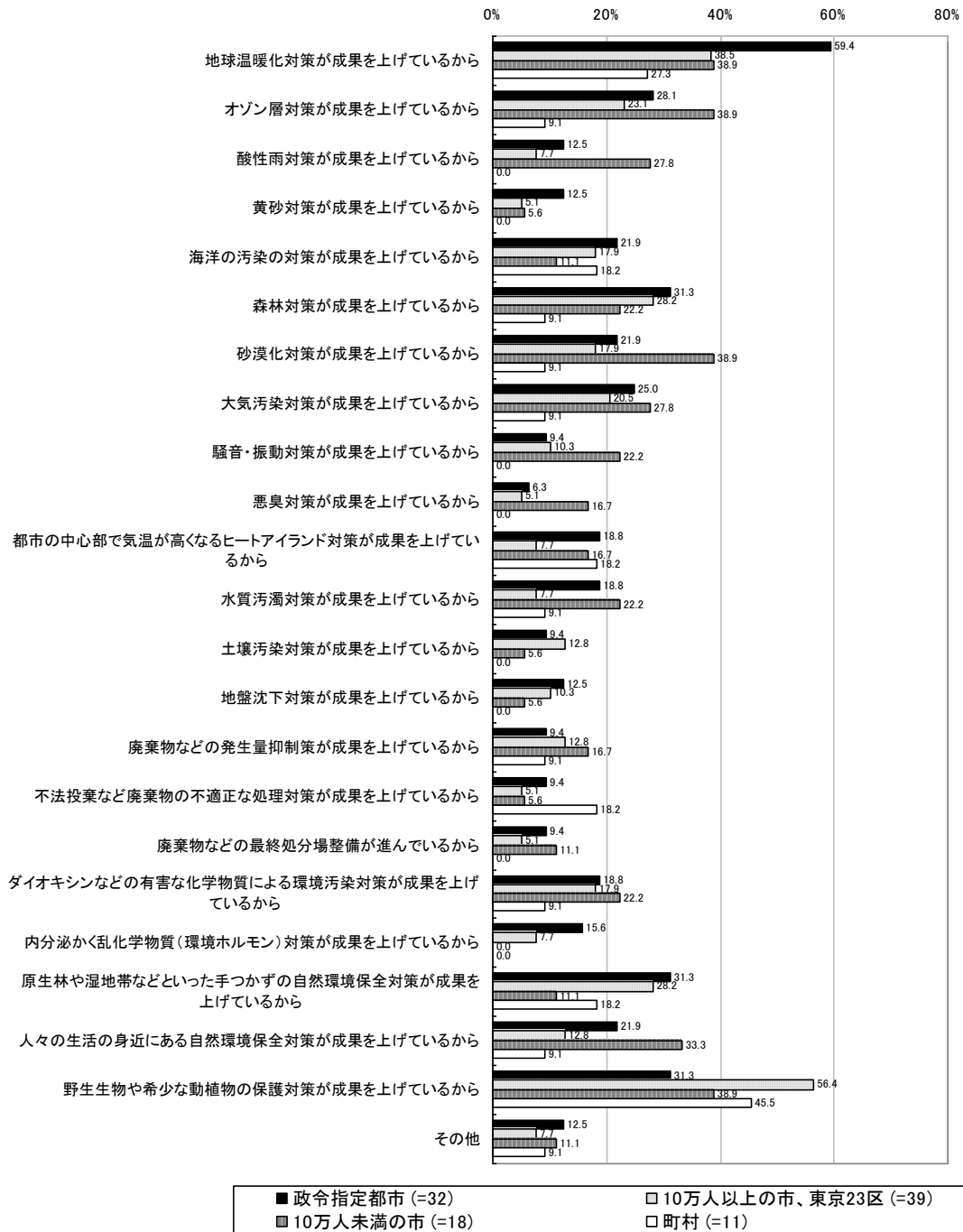


■ 団体職員 (=1) □ 学生 (=2) ■ パート・アルバイト (=10) □ 専業主婦 (=21) □ 無職 (=26) □ その他 (=2)

図表 1-23 地球レベルの環境改善を実感する理由（地域別）



図表 1-24 地球レベルの環境改善を実感する理由（都市規模別）



1-3 近年の環境悪化を実感する理由（問 1-3）

環境悪化を実感する理由は、各レベル以下の回答が多かった。

- ・地域レベルでは、人々の生活の身近にある自然が減少している。
- ・国レベルでは、都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加している。
- ・地球レベルでは、地球温暖化が進んでいる。

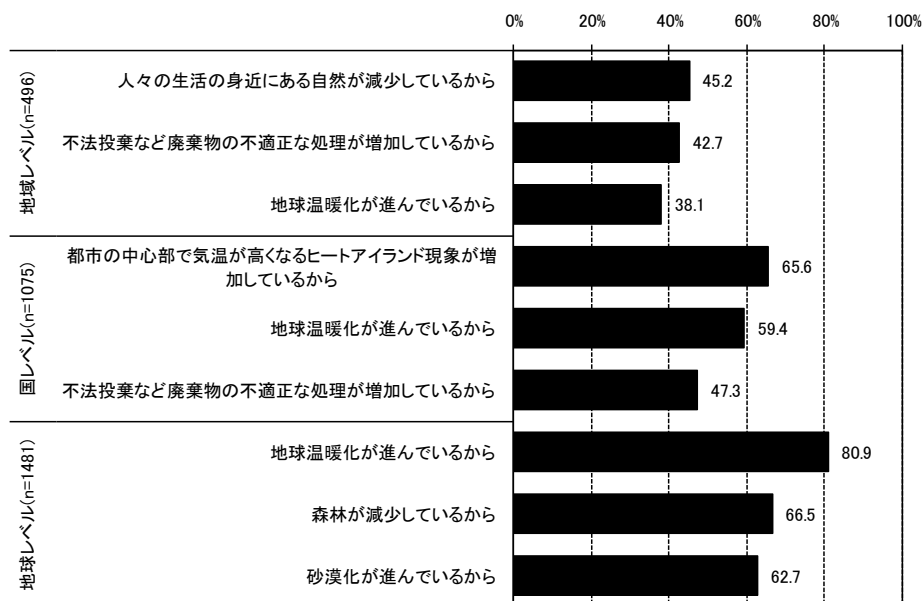
近年の環境の状況についての実感について「悪化している」、「やや悪化している」と回答した人に、地域レベル、国レベル、地球レベル別に環境悪化を実感する理由を尋ねた。

地域レベルでは、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」が45%と最も割合が高く、次いで「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」(43%)、「地球温暖化が進んでいるから」(38%)となっている。

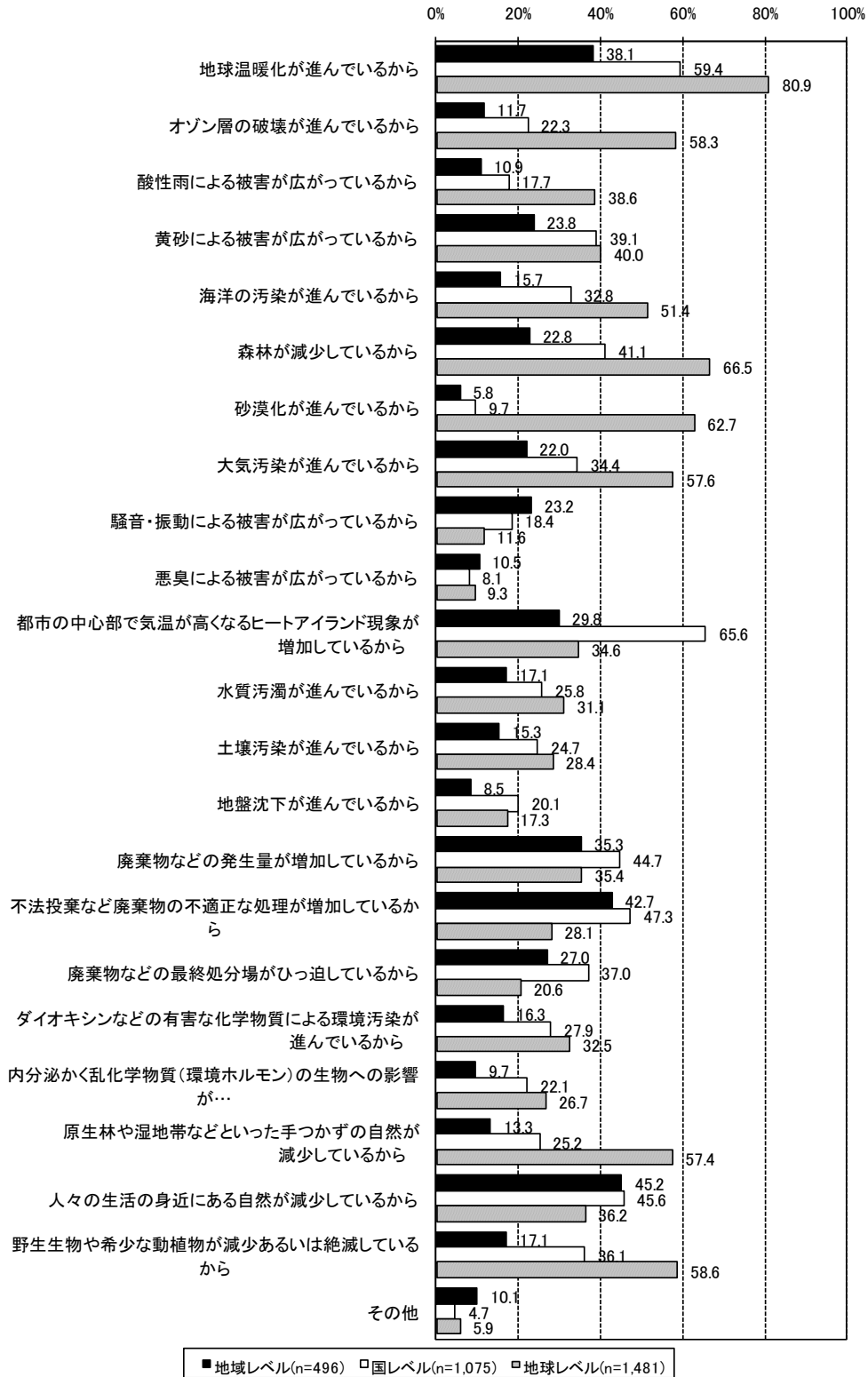
国レベルでは、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」が66%と最も割合が高く、次いで、「地球温暖化が進んでいるから」(59%)、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」(47%)となっている。

地球レベルでは、「地球温暖化が進んでいるから」が81%と最も割合が高く、次いで「森林が減少しているから」(67%)、「砂漠化が進んでいるから」(63%)となっている。

図表 1-25 近年の環境悪化を実感する理由（各レベル別上位3項目）



図表 1-26 近年の環境悪化を実感する理由



地域レベルの環境悪化を実感する理由

地域レベルの環境の状況についての実感について「悪化している」、「やや悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」が45%と最も割合が高く、次いで「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」(43%)、「地球温暖化が進んでいるから」(38%)となっている。

性別で見ると、多くの項目で女性が男性よりも高くなっており、特に「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」では女性が男性よりも15ポイント以上高くなっている(男性37%、女性54%)。

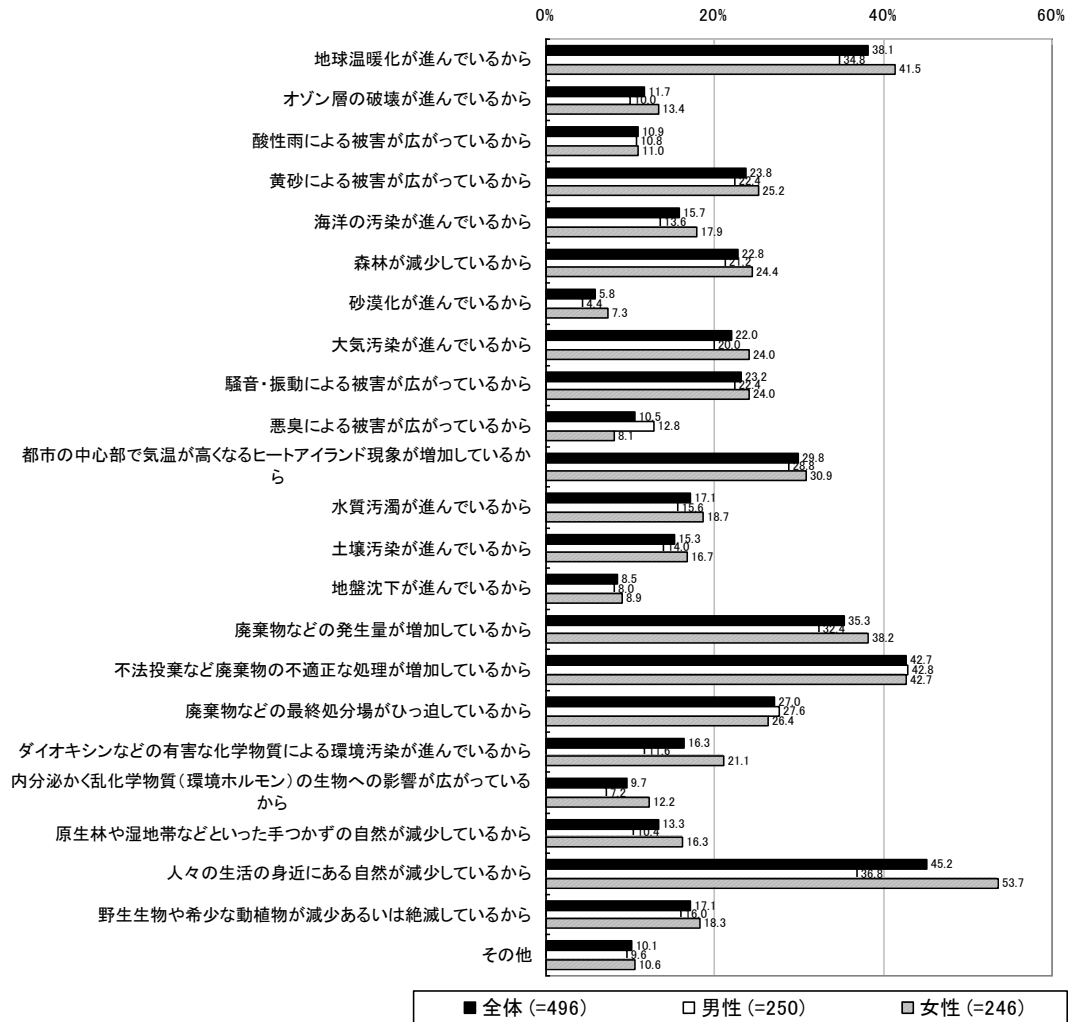
年代別では、多くの項目で70代以上の割合が全体よりも高くなっている。「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」は全年代で割合が高いが、20代および30代では35%に対して、70代以上では53%となっている。

職業別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

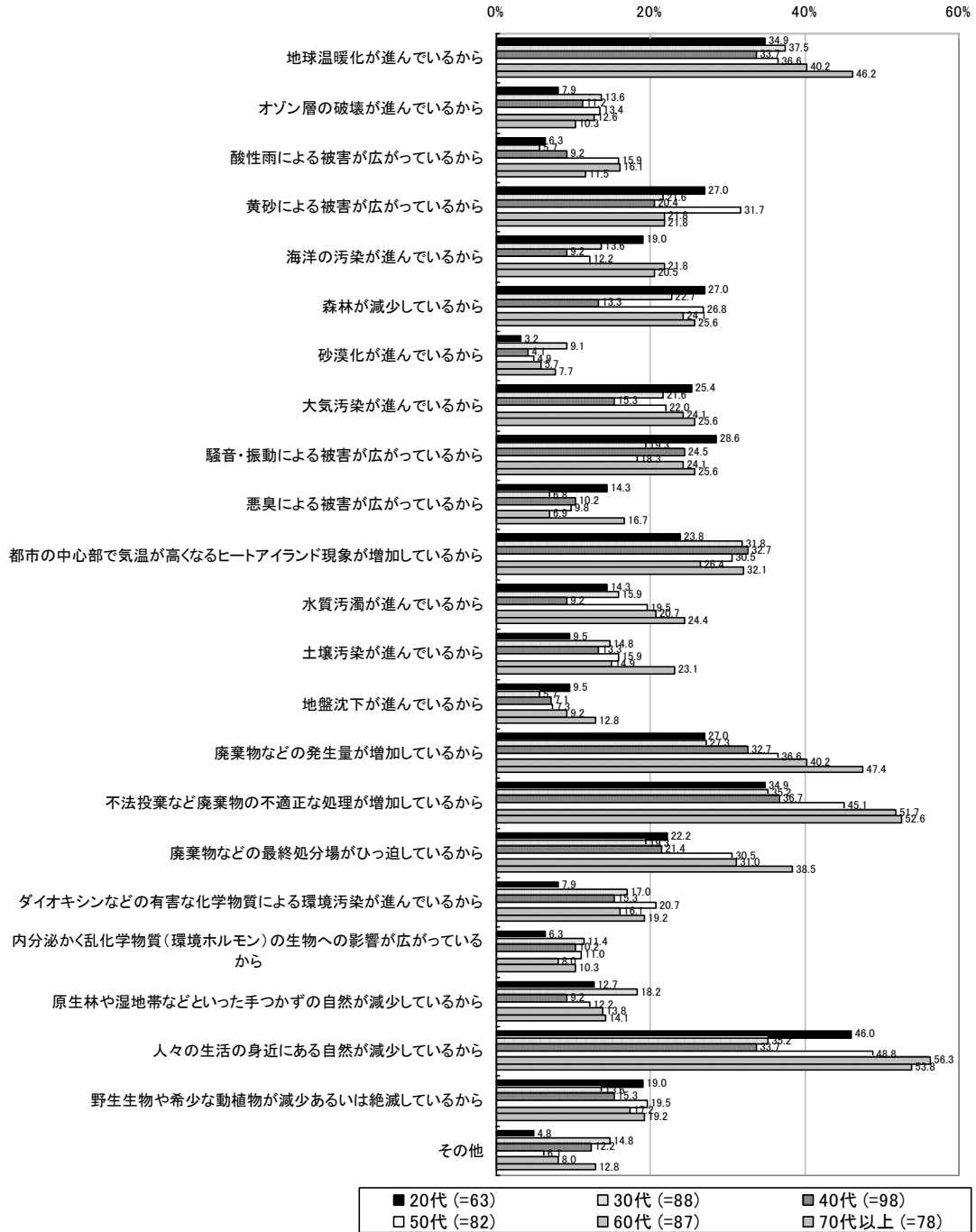
地域別では、全体よりも15ポイント以上高くなっているものとして、「地球温暖化が進んでいるから」(北陸、67%)、「黄砂による被害が広がっているから」(九州・沖縄、55%)、「海洋の汚染が進んでいるから」(北陸、40%)があげられる。また、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」についても、関東の44%に対して北海道は10%と地域差がみられた。

都市規模別では、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」が政令指定都市では44%、10万人以上の市と東京23区では35%と高い一方、町村では4%と低くなっている。

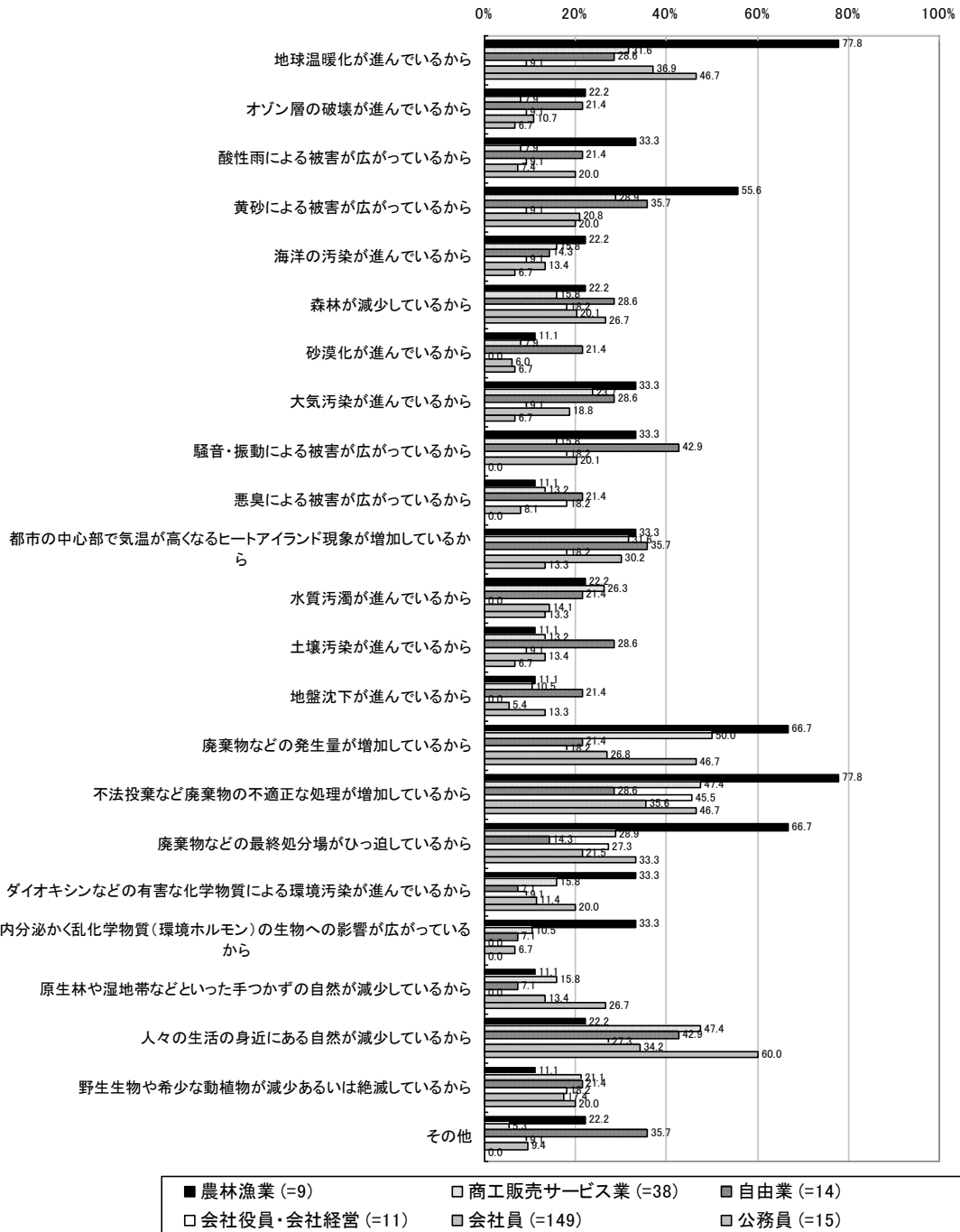
図表 1-27 地域レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）



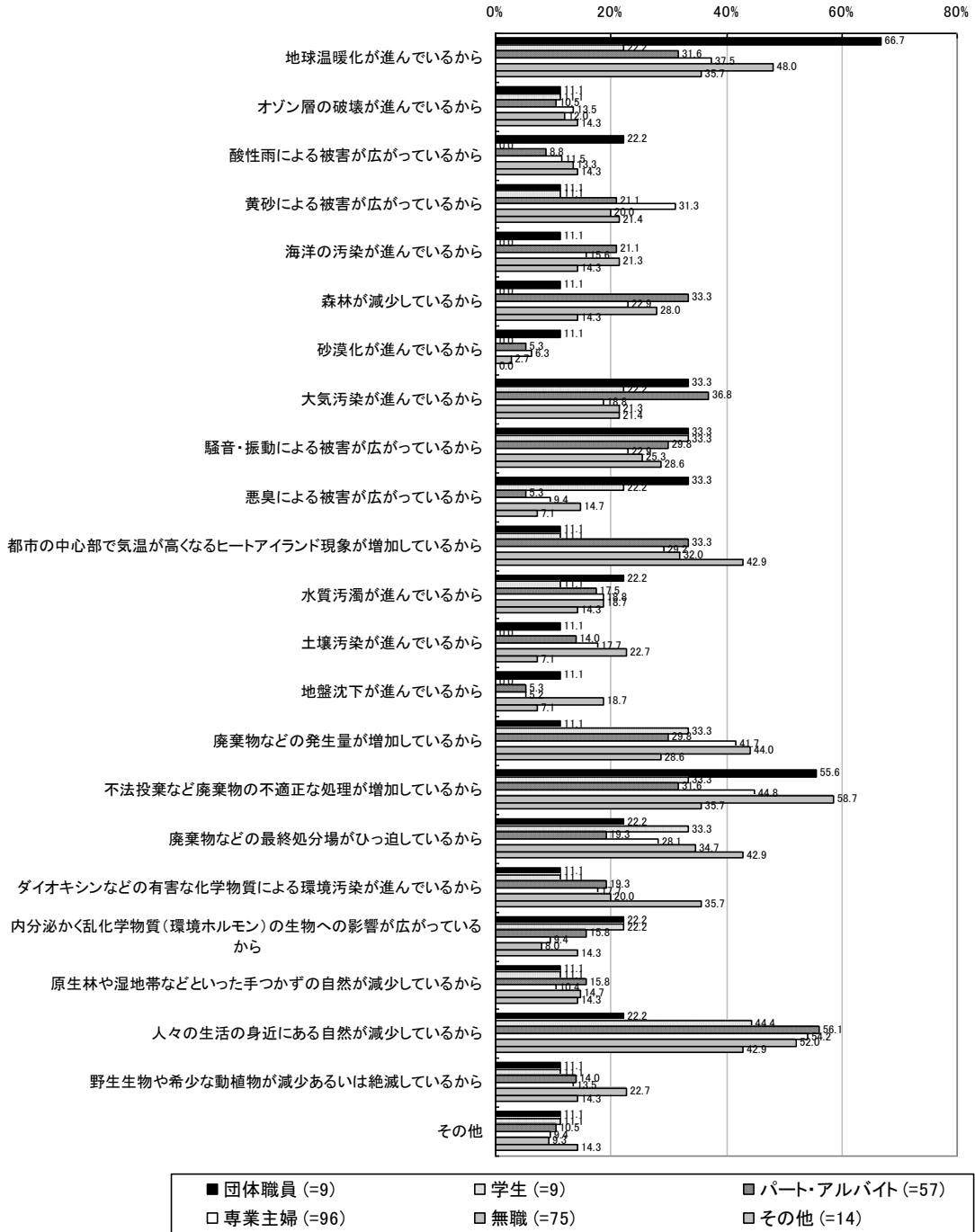
図表 1-28 地域レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）



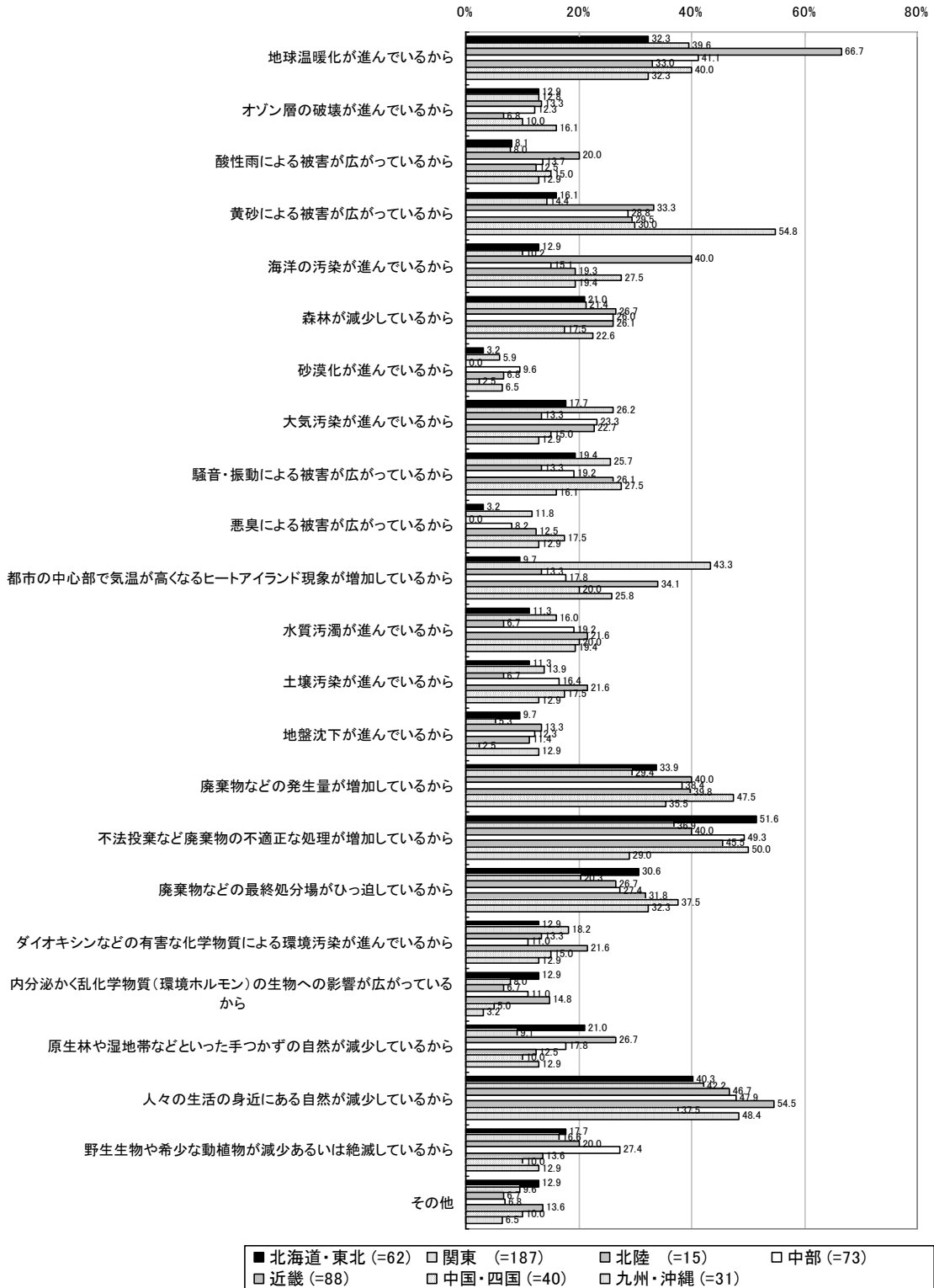
図表 1-29 地域レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）



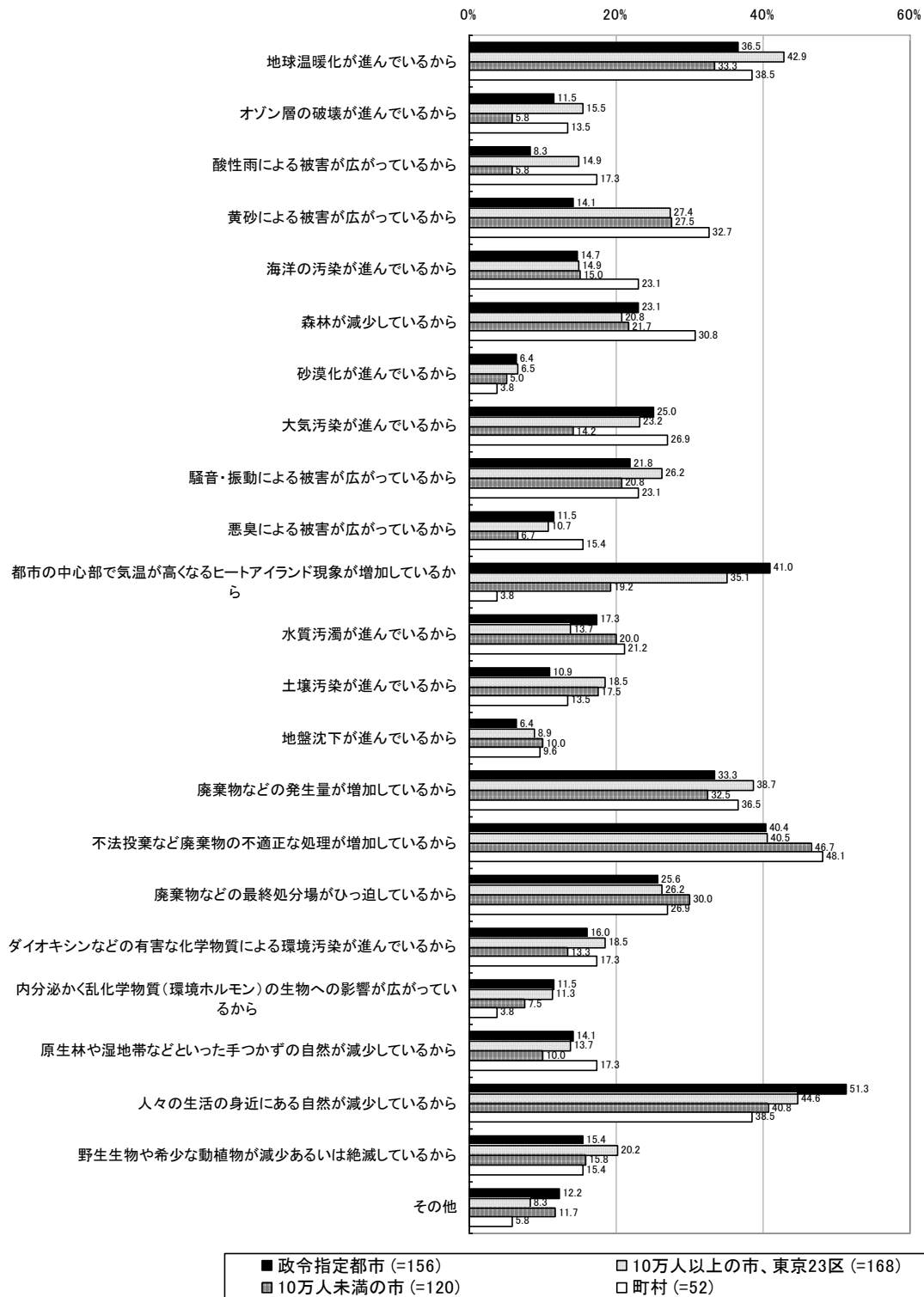
図表 1-30 地域レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）



図表 1-31 地域レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



図表 1-32 地域レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



国レベルの環境悪化を実感する理由

国レベルの環境の状況についての実感について「悪化している」、「やや悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」が66%と最も割合が高く、次いで、「地球温暖化が進んでいるから」(59%)、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」(47%)となっている。

性別でみると、多くの項目で女性が男性よりも高くなっており、特に「海洋の汚染が進んでいるから」、「大気汚染が進んでいるから」、「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染が進んでいるから」、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」、「野生生物や希少な動植物が減少あるいは絶滅しているから」で女性が男性よりも10ポイント以上高くなっている。

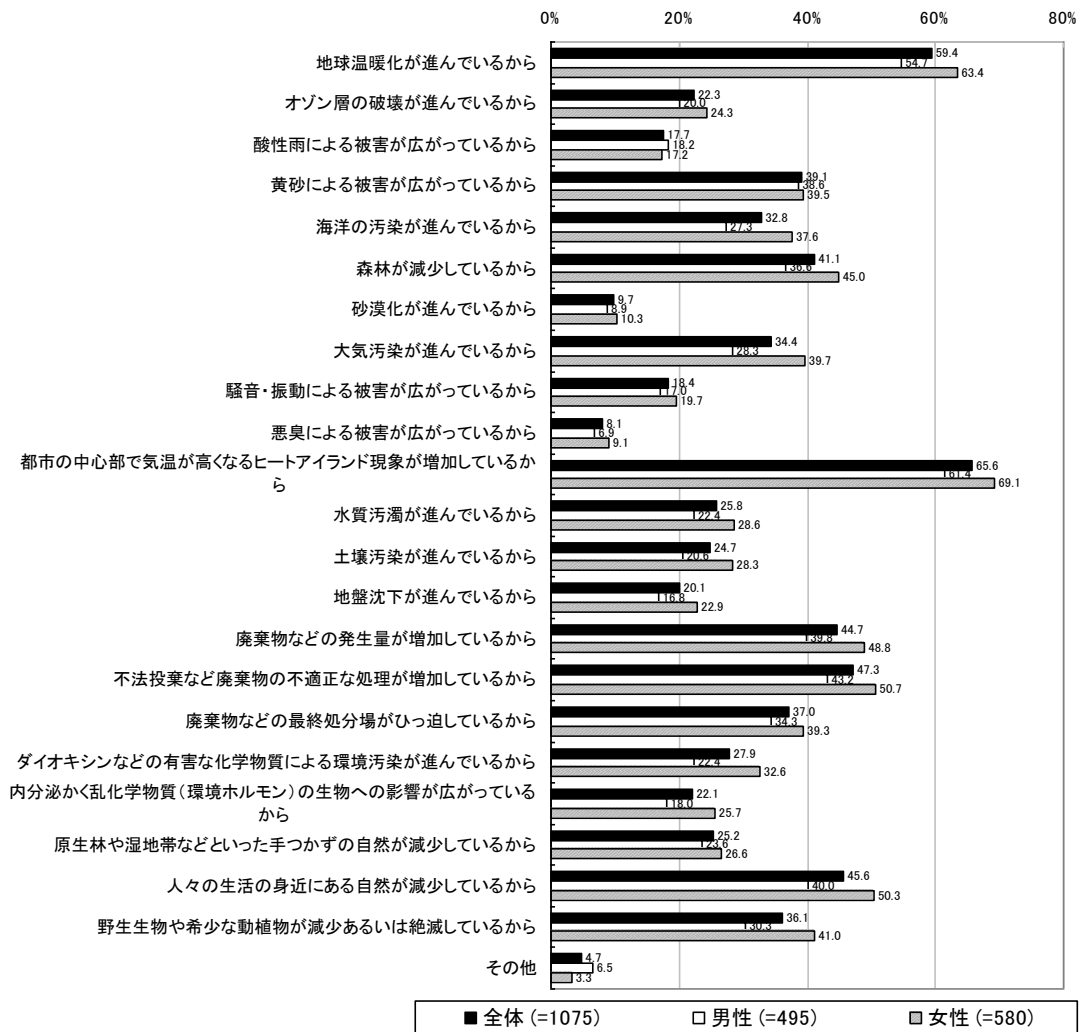
年代別では、ほとんど全ての項目で70代以上の割合が全体よりも高くなっている。「酸性雨による被害が広がっているから」は年代があがるにつれて割合が高くなっており、20代では8%、70代以上では24%となっている。

職業別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

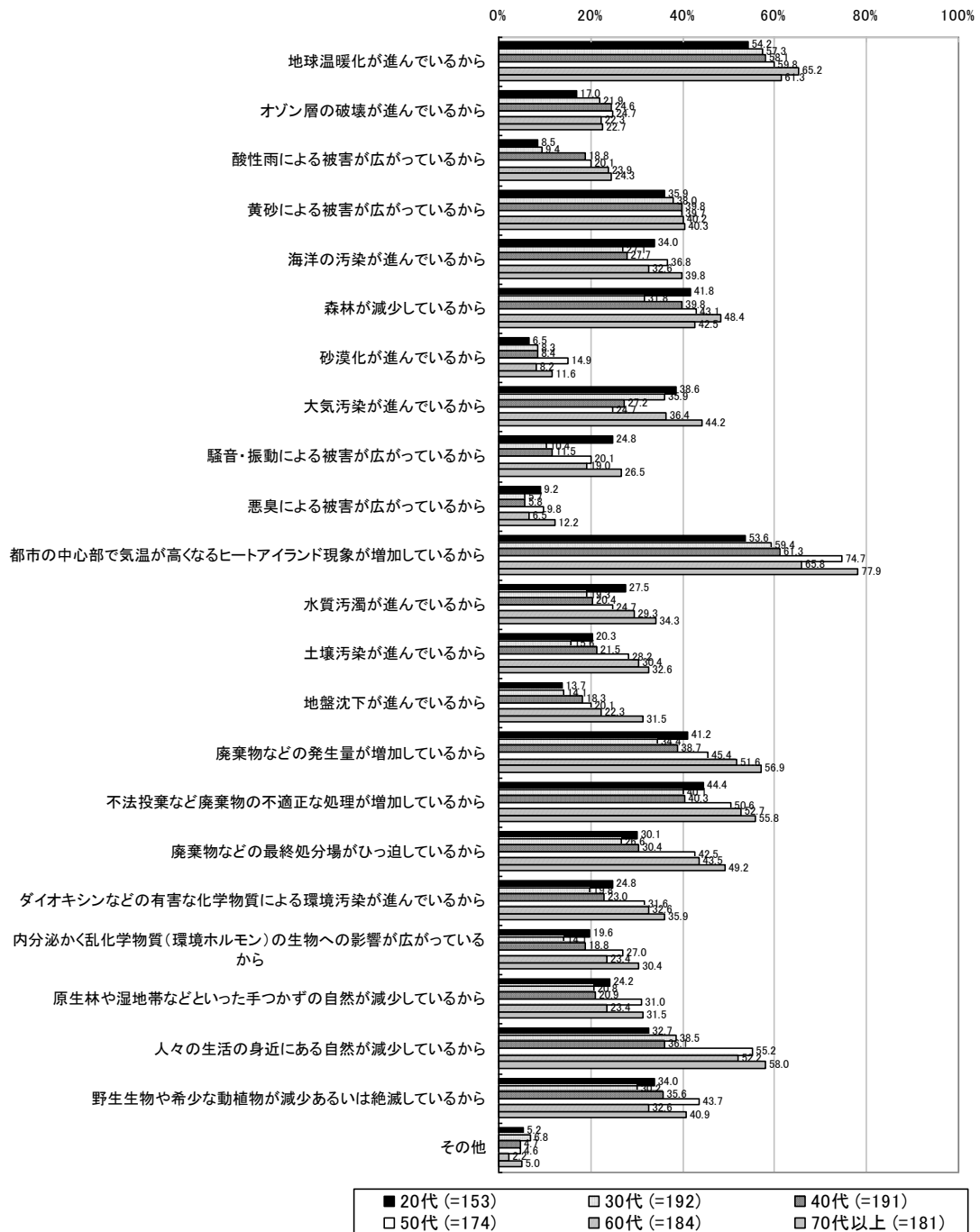
地域別でみると、中国・四国では「黄砂による被害が広がっているから」が49%、中部では「野生生物や希少な動植物が減少あるいは絶滅しているから」が51%と全体よりも10ポイント以上高くなっている。「地球温暖化が進んでいるから」、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」は全ての地域で多くなっている。

都市規模別では、「地球温暖化が進んでいるから」、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」は全ての都市規模で多くなっている。「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」は政令指定都市では65%、10万人以上の市と東京23区では70%と全体よりも高い一方、町村では54%と全体よりも低くなっている。

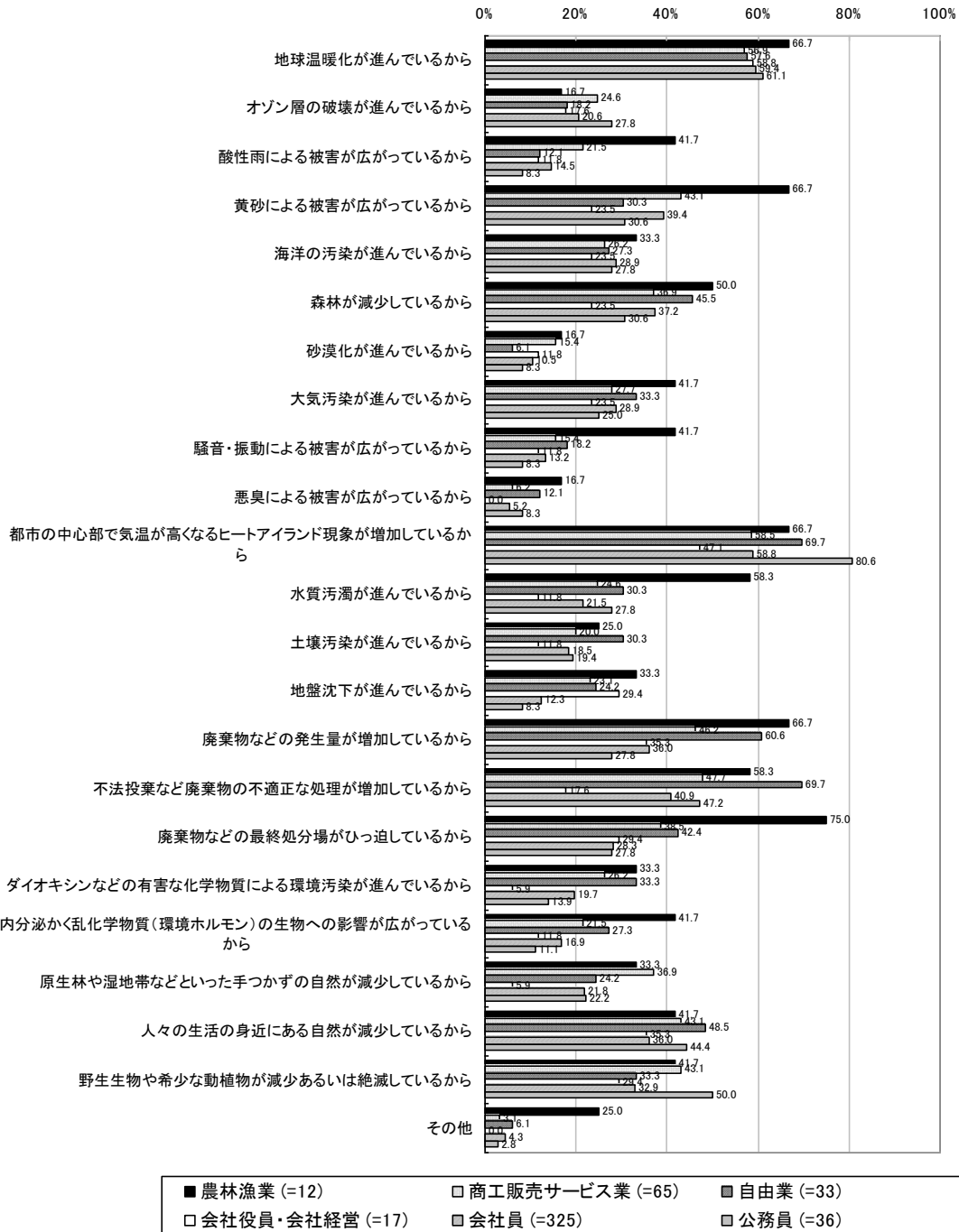
図表 1-33 国レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）



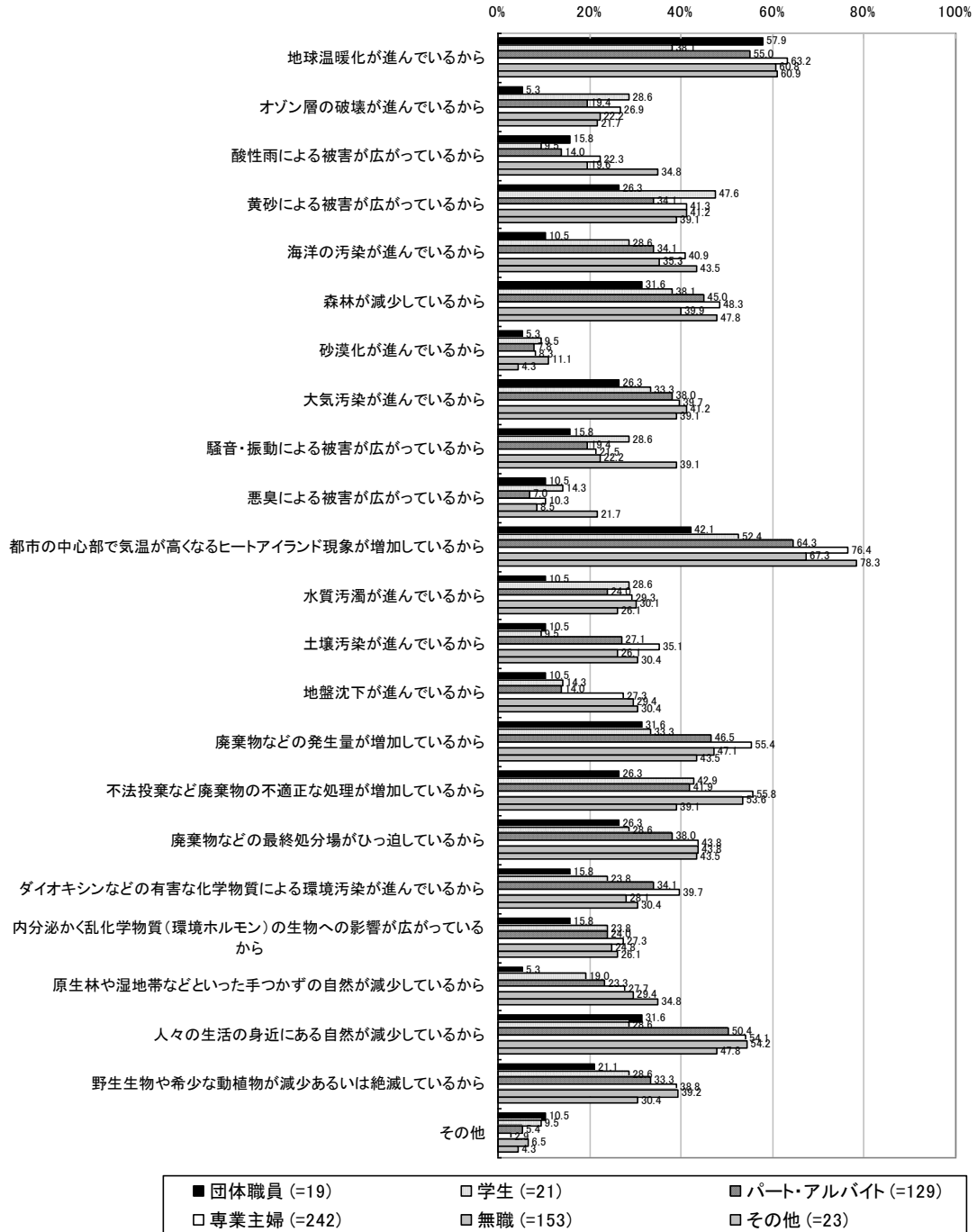
図表 1-34 国レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）



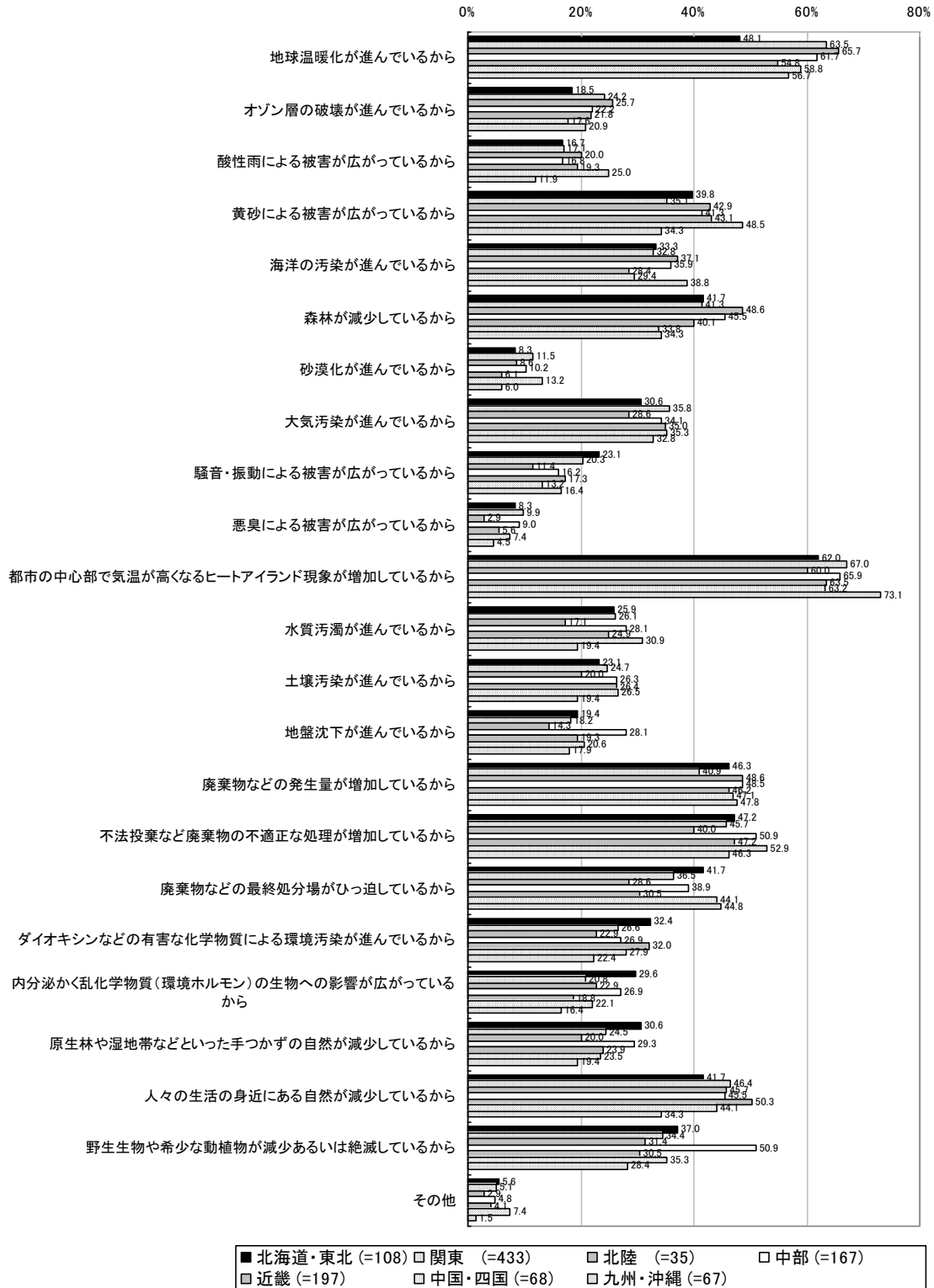
図表 1-35 国レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）



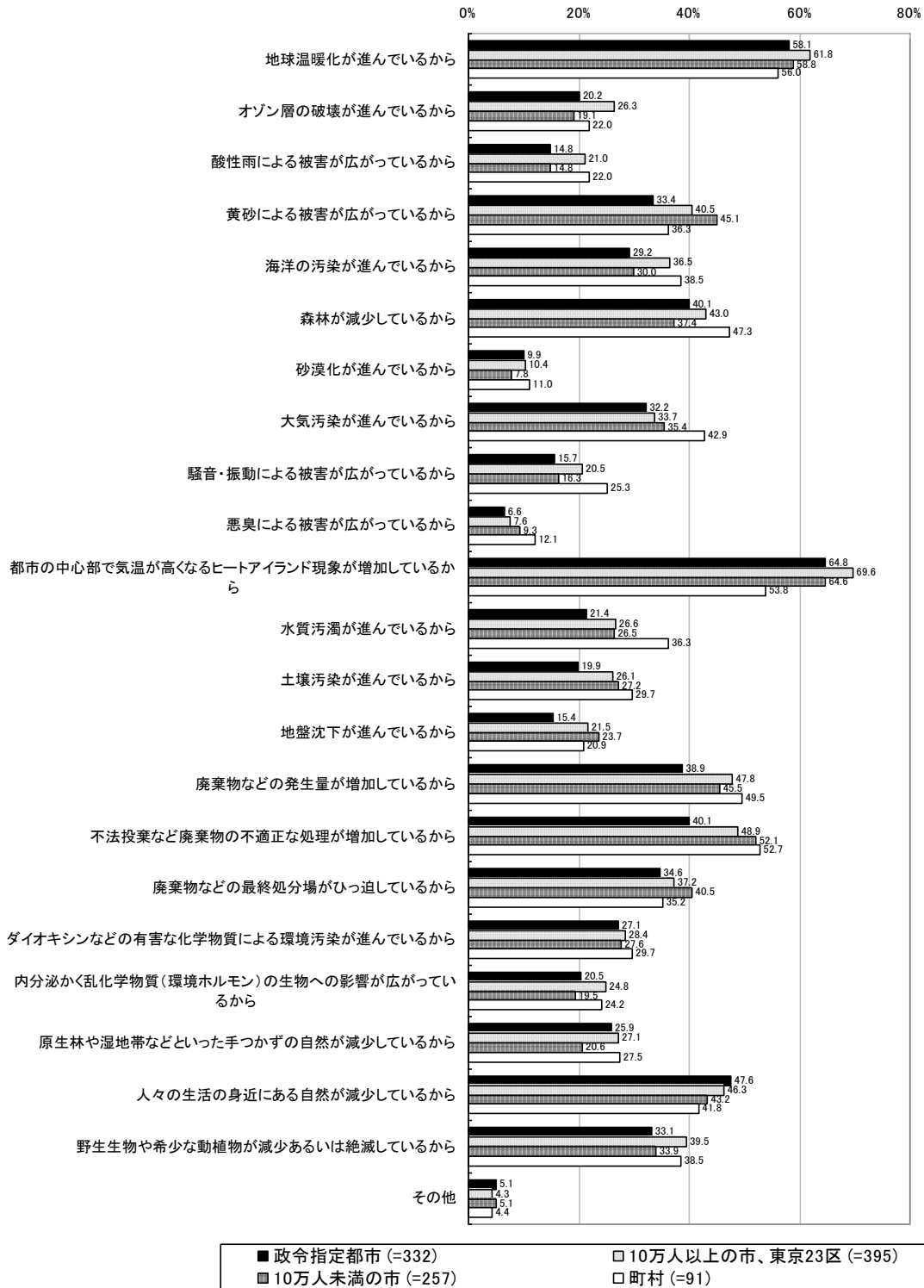
図表 1-36 国レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）



図表 1-37 国レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



図表 1-38 国レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



地球レベルの環境悪化を実感する理由

地球レベルの環境の状況についての実感について「悪化している」、「やや悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、「地球温暖化が進んでいるから」が81%と最も割合が高く、次いで「森林が減少しているから」(67%)、「砂漠化が進んでいるから」(63%)となっている。

性別で見ると、多くの項目で女性が男性よりも高くなっている。男性、女性ともに「地球温暖化が進んでいるから」の割合が最も高くなっている（男性76%、女性85%）。

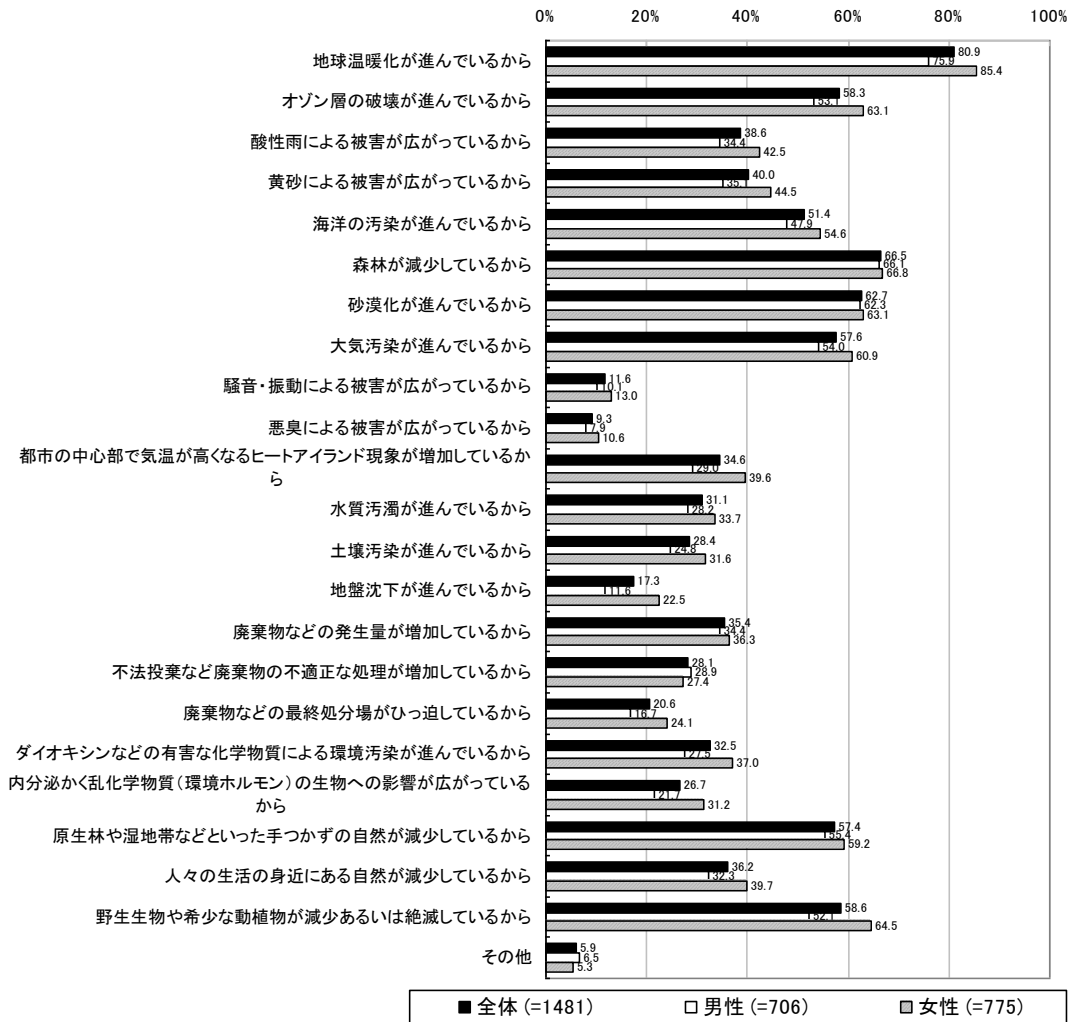
年代別では、ほとんど全ての項目で70代以上の割合が全体よりも高くなっている。「酸性雨による被害が広がっているから」、「原生林や湿地帯などといった手つかずの自然が減少しているから」、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」は年代があがるにつれて割合が高くなっている。

職業別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

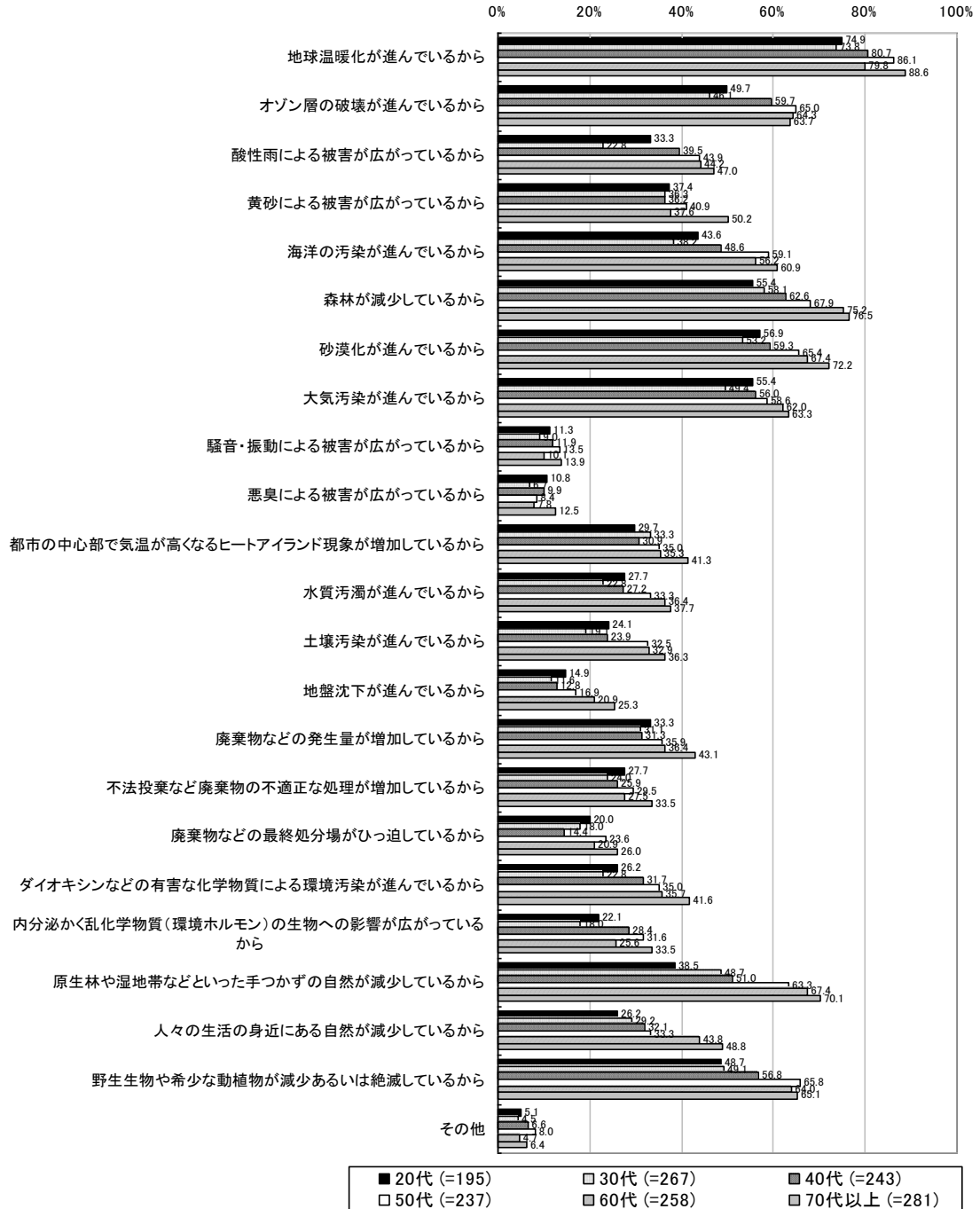
地域別で見ると、「地球温暖化が進んでいるから」、「森林が減少しているから」、「砂漠化が進んでいるから」については全地域で多くなっている。「原生林や湿地帯などといった手つかずの自然が減少しているから」、「野生生物や希少な動植物が減少あるいは絶滅しているから」については、北陸ではそれぞれ45%と、全体よりも10ポイント以上低くなっている。

都市規模別で見ると、全ての都市規模で「地球温暖化が進んでいるから」、「森林が減少しているから」が多くなっている。町村では「砂漠化が進んでいるから」が53%と全体よりも10ポイント低くなっている。

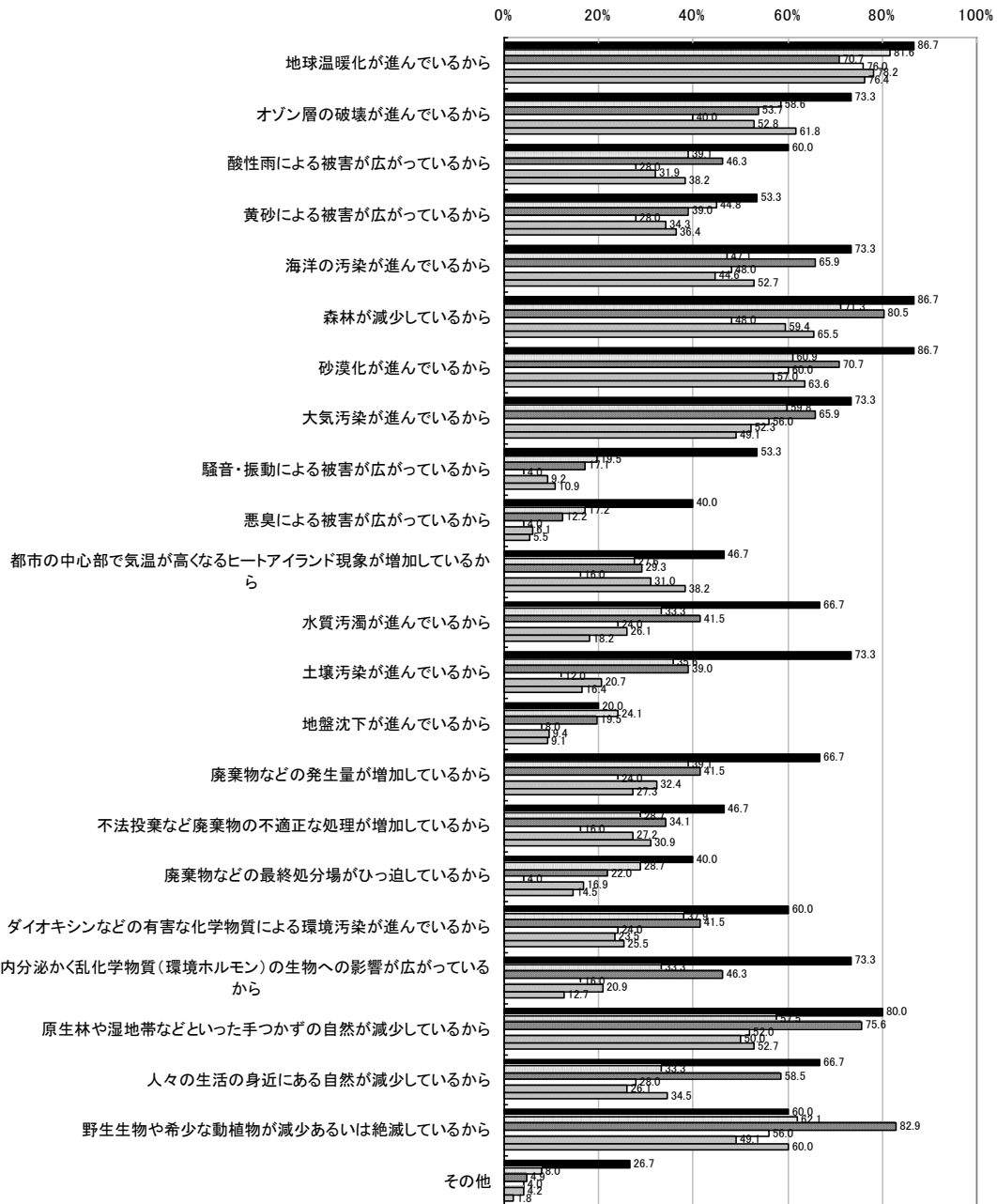
図表 1-39 地球レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）



図表 1-40 地球レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）

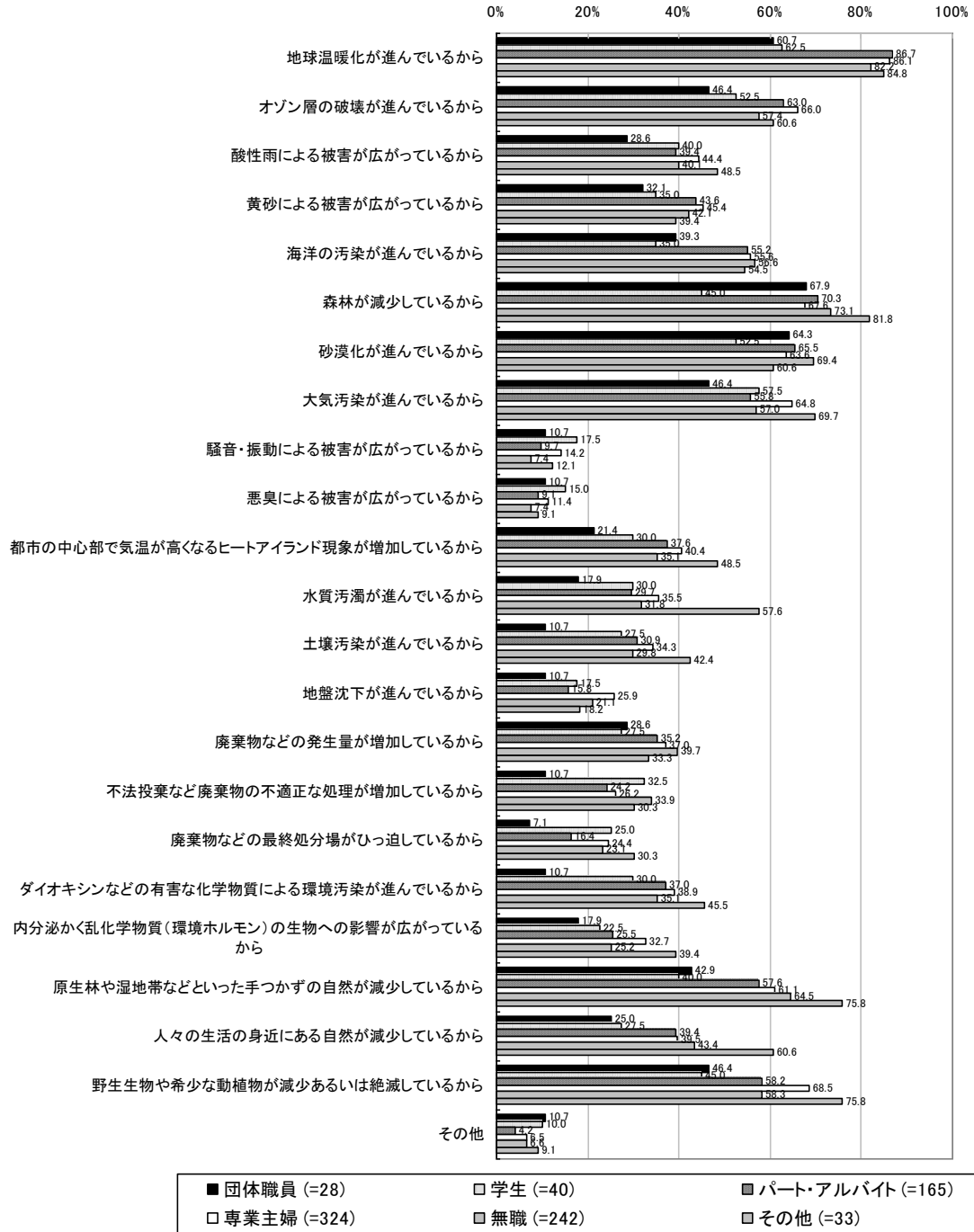


図表 1-41 地球レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）

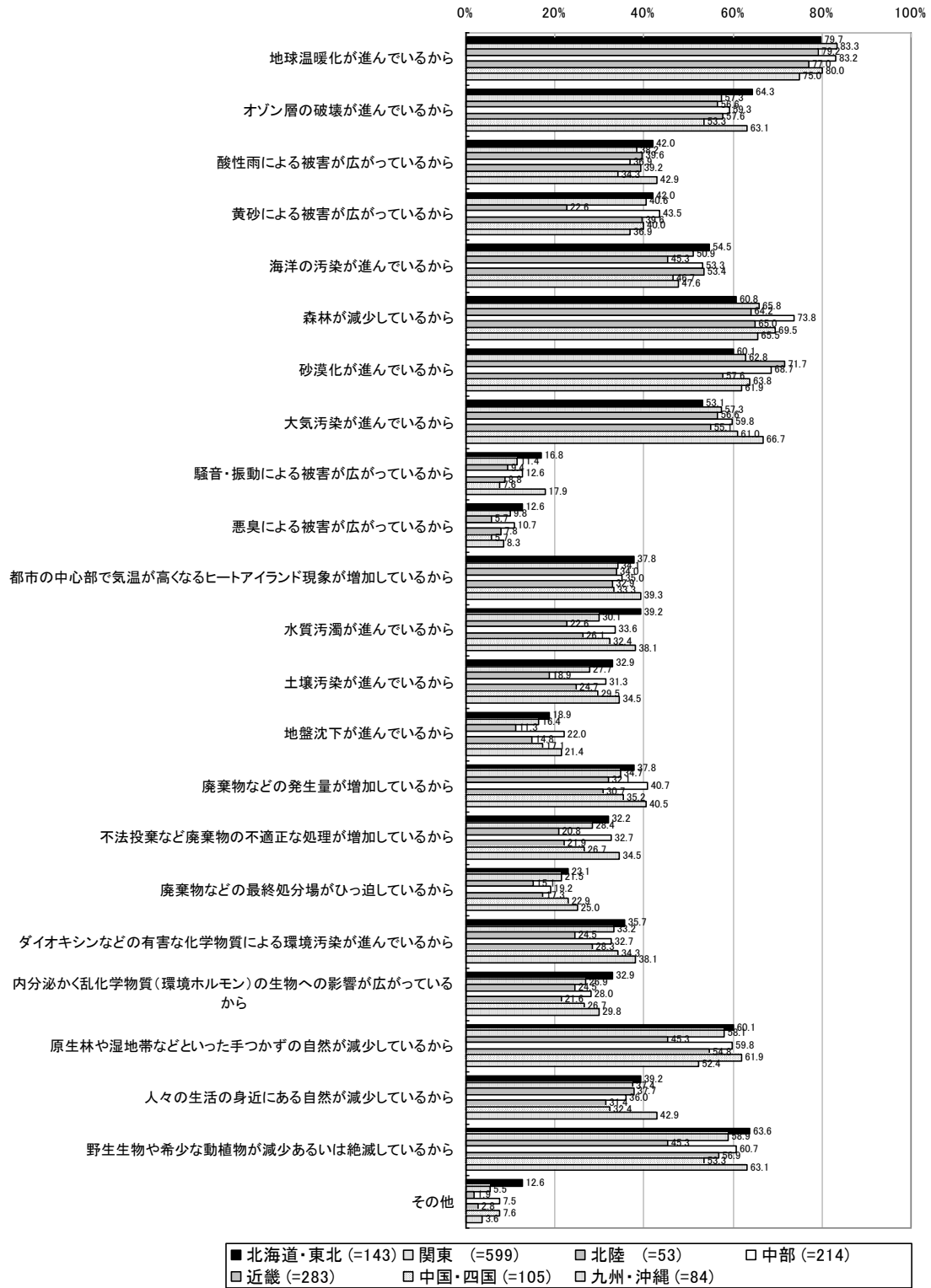


■ 農林漁業 (=15) □ 農工商販売サービス業 (=87) ■ 自由業 (=41)
 □ 会社役員・会社経営 (=25) □ 会社員 (=426) □ 公務員 (=55)

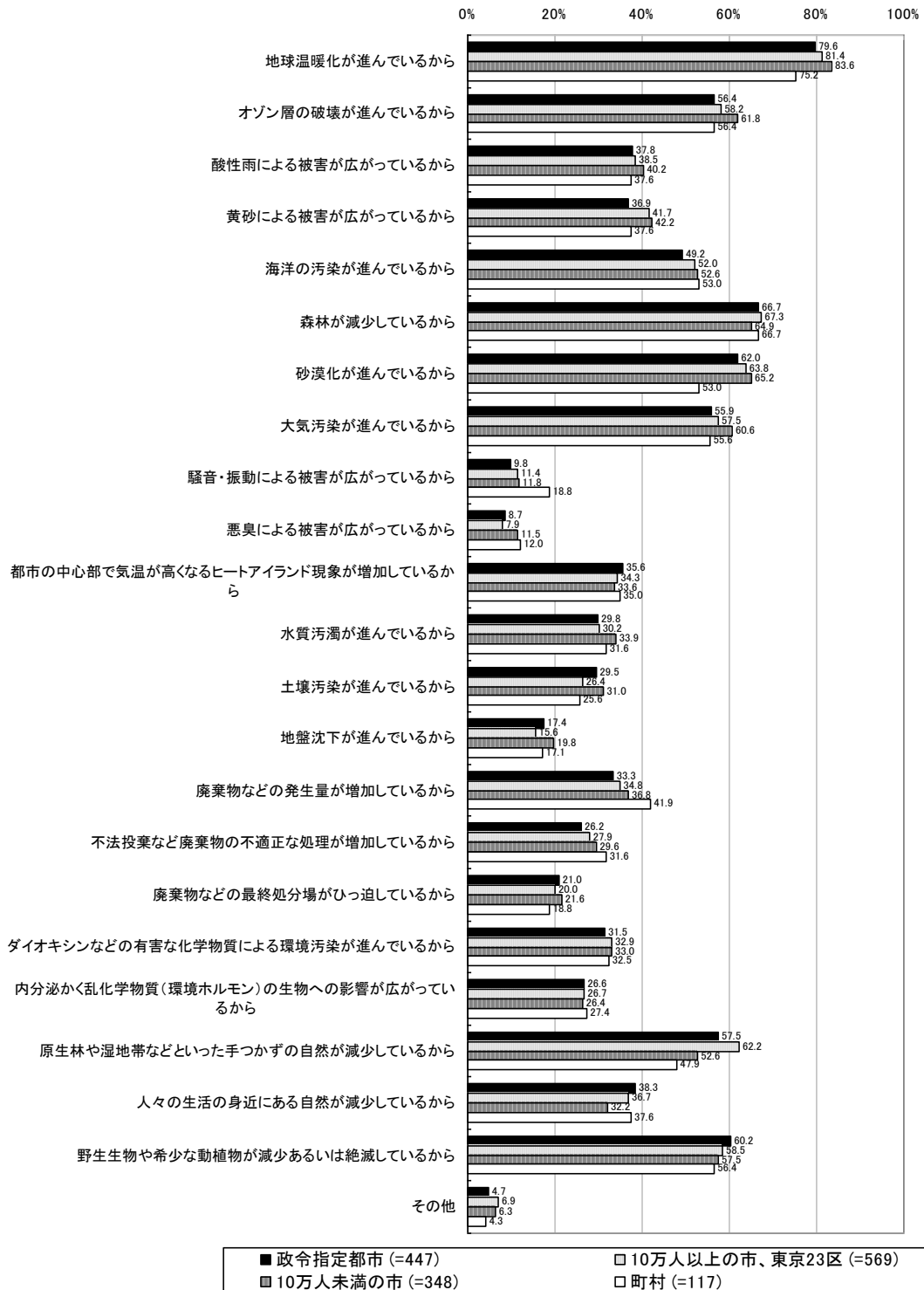
図表 1-42 地球レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）



図表 1-43 地球レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



図表 1-44 地球レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



1-4 関心のある環境問題（問 1-4）

関心のある環境問題は「地球温暖化」と回答している人が 74%と最も高い割合をしめる。次いで、「森林の減少」（49%）、「大気汚染」（39%）となっている。

関心のある環境問題については、「地球温暖化」74%が最も関心が高く、次いで、「森林の減少」（49%）、「大気汚染」（39%）、「人々の生活の身近にある自然の減少」（36%）および「オゾン層の破壊」（36%）となっている。一方、関心の低い項目は、「騒音・振動」（16%）、「地盤沈下」（13%）、「悪臭」9%となっている。

平成 21 年度調査と比較すると、「原生林や湿地帯などといった手つかずの自然の減少」、「人々の生活の身近にある自然の減少」など 6 項目で若干関心度が上昇しているが、それ以外の 17 項目では関心度が低くなっている。

性別では、女性の方が男性よりも関心が高い項目が多くなっている。男性の方が女性よりも割合が高くなっている項目は、「酸性雨」（男性 25%、女性 22%）、「海洋の汚染」（男性 34%、女性 33%）、「砂漠化」（男性 32%、女性 26%）となっている。

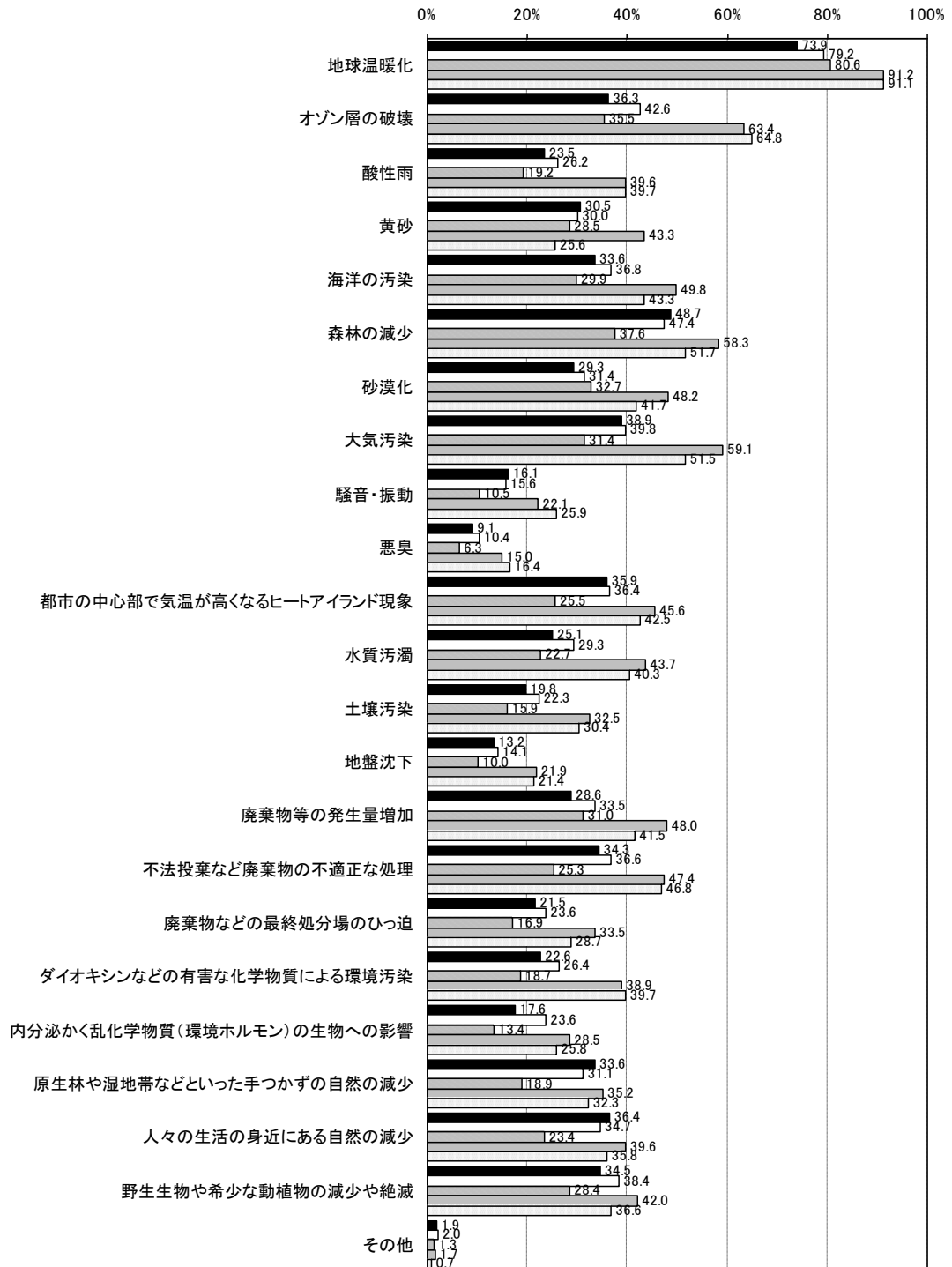
年代別では、60 代、70 代以上の方は多くの項目に対して関心が高い傾向がみられる。70 代以上の方は、全ての項目で全体よりも割合が高くなっている。

職業別では、専業主婦の方はほとんど全ての項目で全体よりも関心が高くなっている。農林漁業者では「酸性雨」への関心が 62%と、全体よりも 35 ポイント以上高くなっている。学生では「騒音・振動」が 31%と全体よりも 15 ポイント高くなっている。

地域別でみると、「黄砂」は中国・四国、九州・沖縄で全体よりも 15 ポイント高くなっているが、北海道・東北、関東では 5 ポイント以上低くなっている。

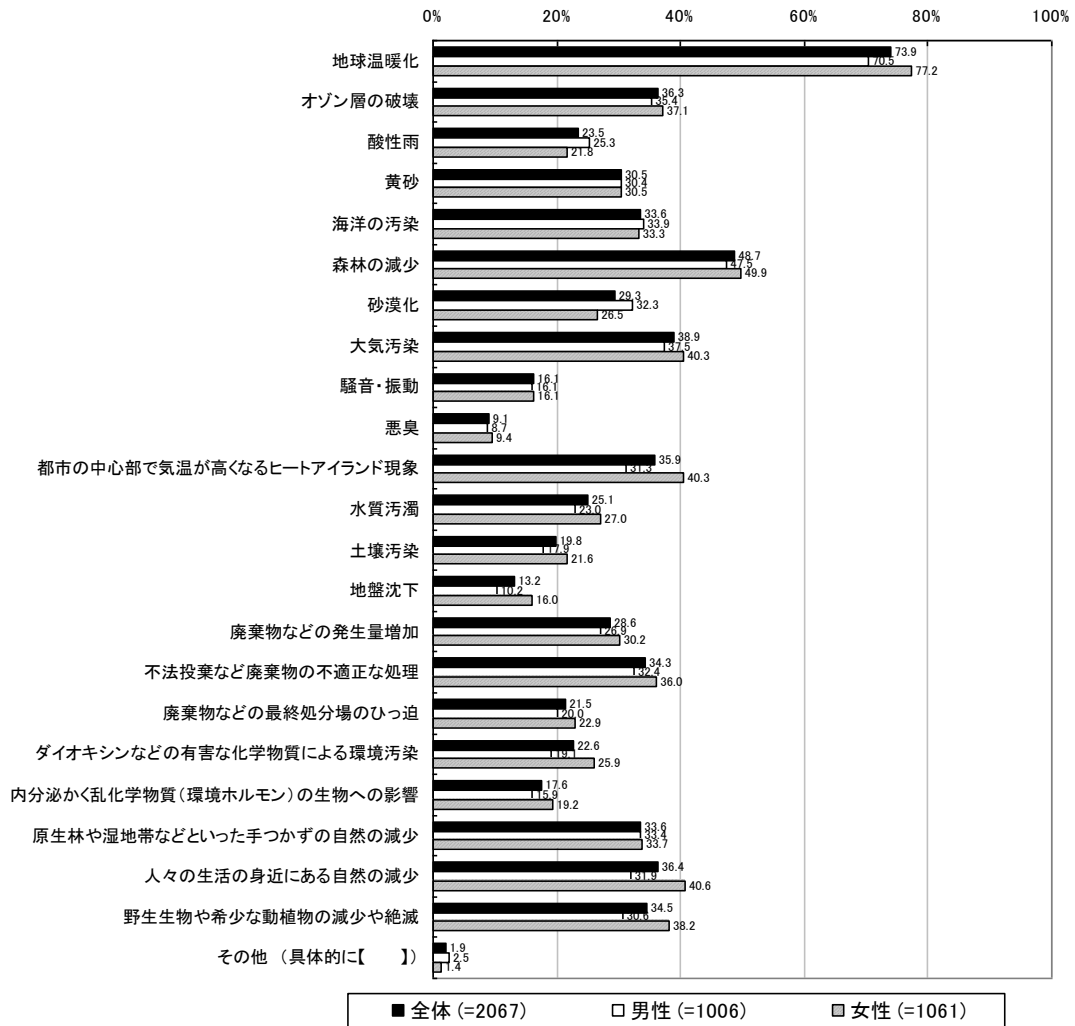
都市規模別でみると、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」では、政令指定都市が 44%と高くなっているが、10 万人未満の市では 30%、町村では 25%と低くなっている。

図表 1-45 関心のある環境問題（時系列）

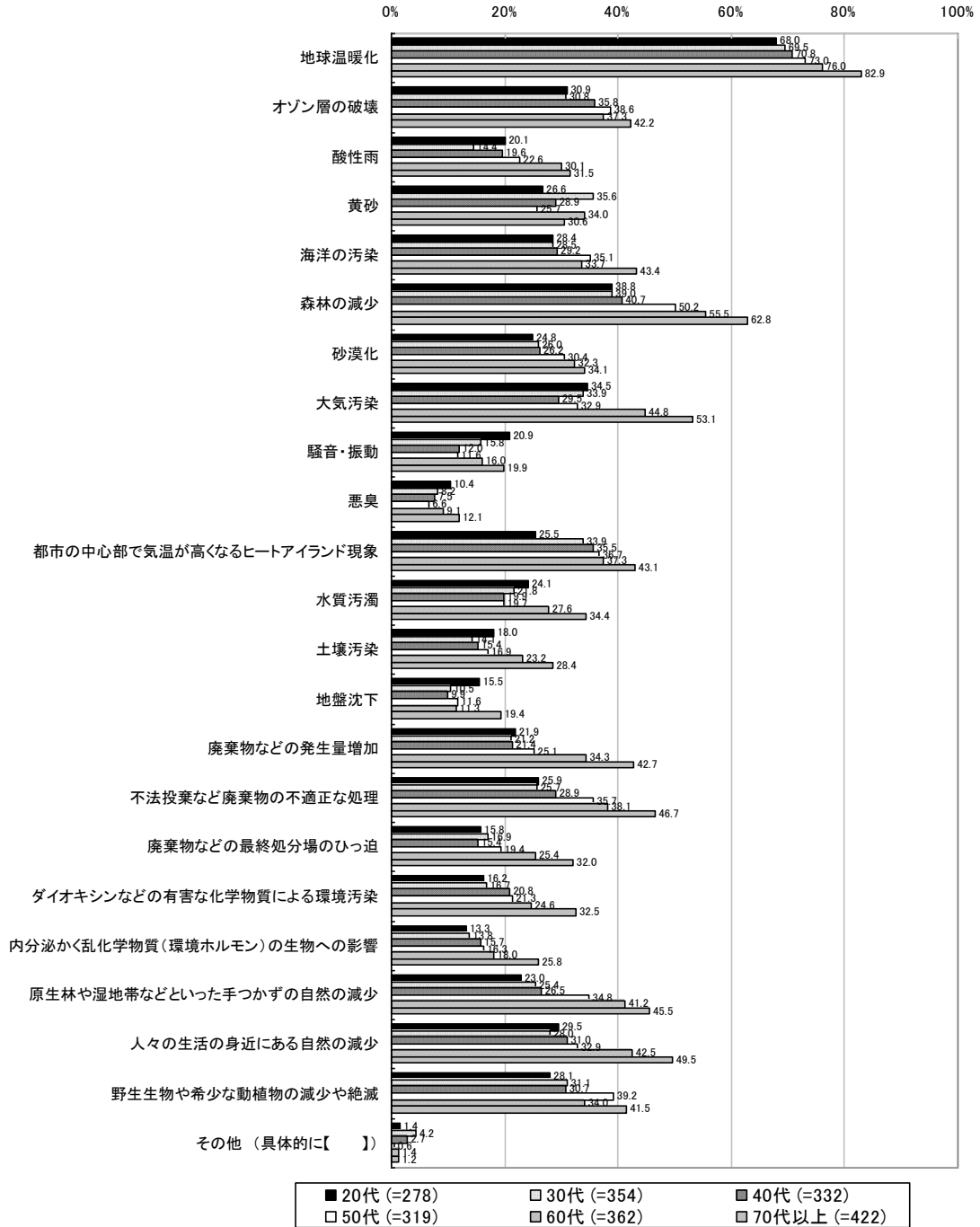


■ 平成22年度(n=2,067) □ 平成21年度(n=1,600) □ 平成20年度(n=2,197) □ 平成19年度(n=1,627) □ 平成18年度(n=1,890)

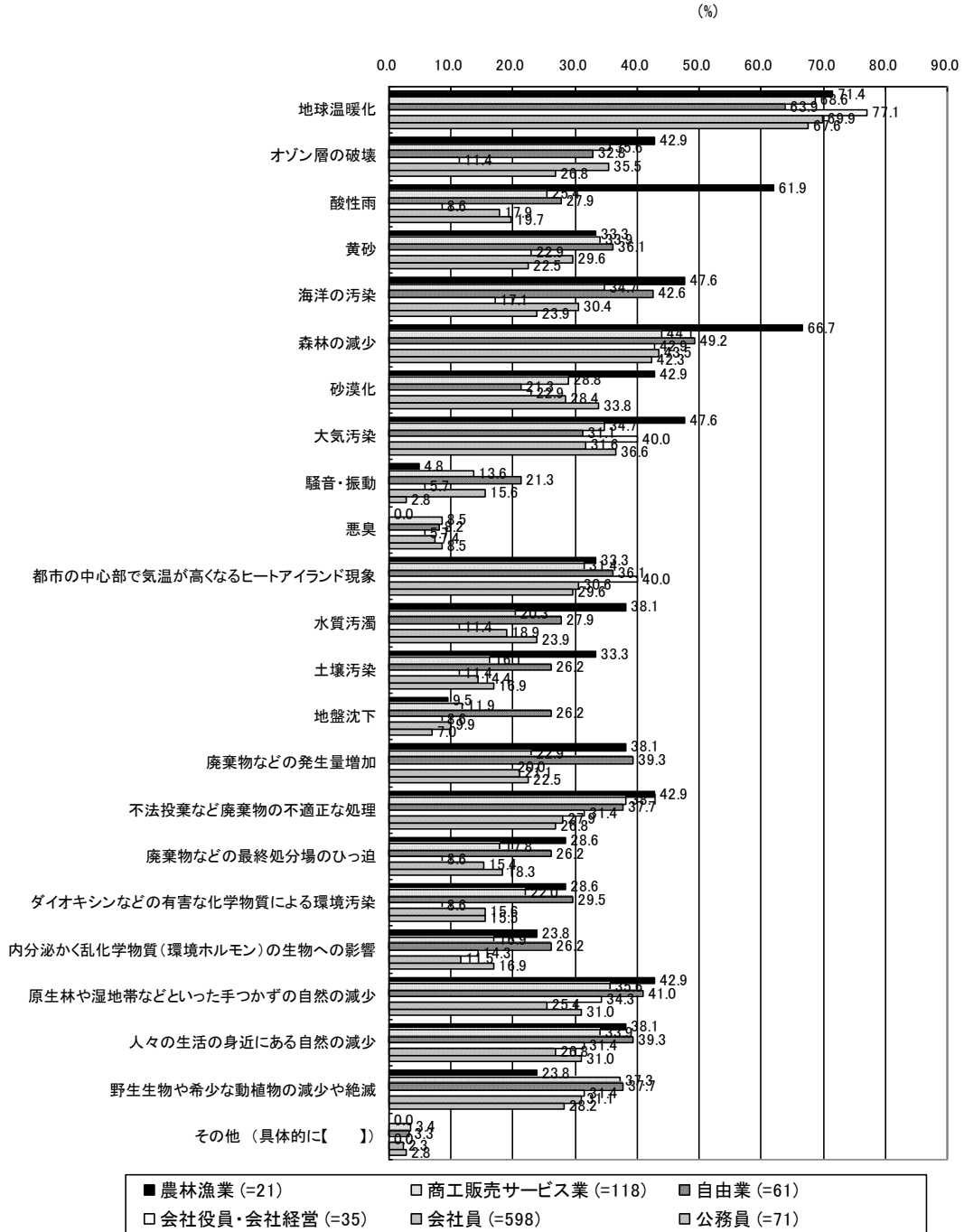
図表 1-46 関心のある環境問題（全体、性別）



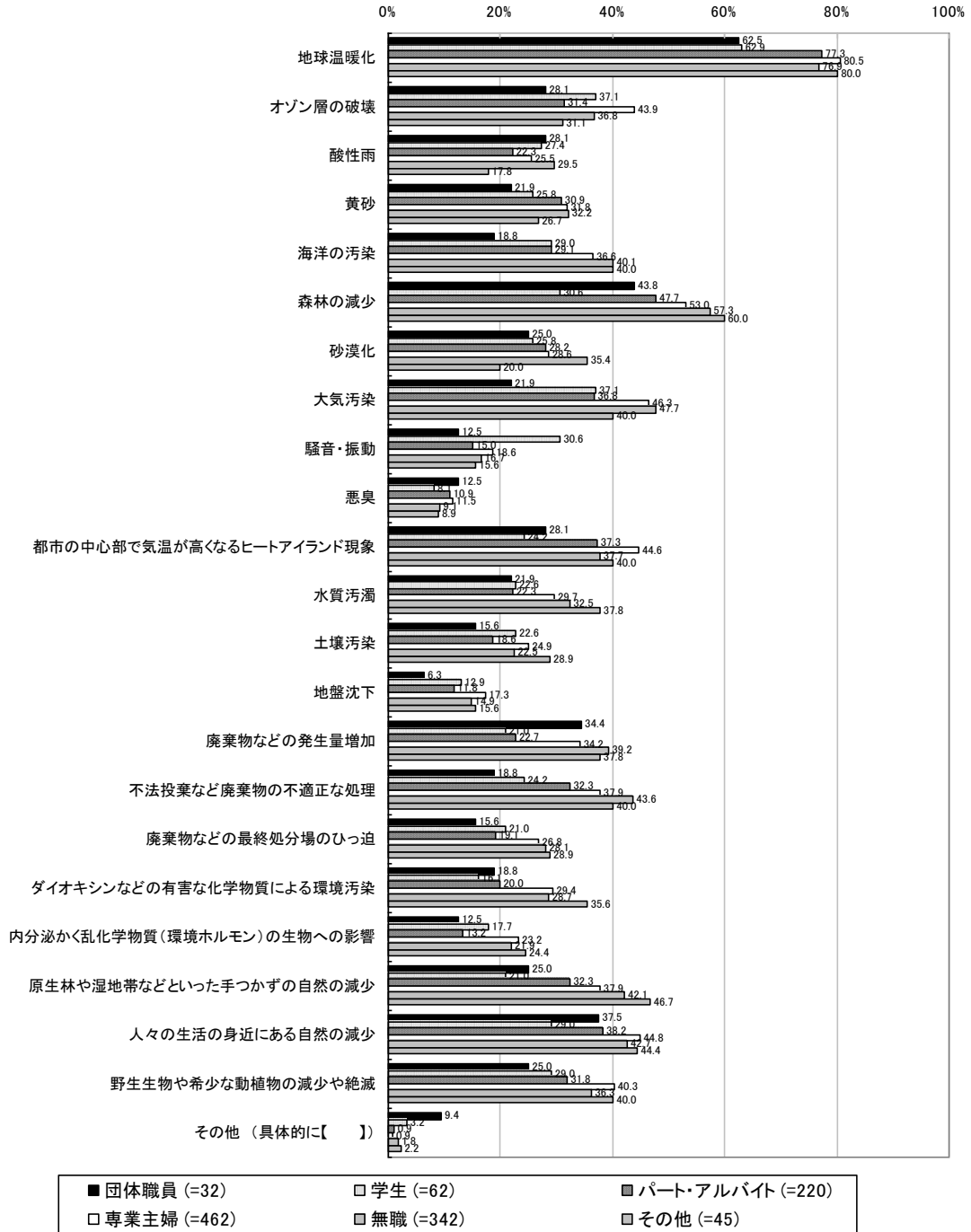
図表 1-47 関心のある環境問題（年代別）



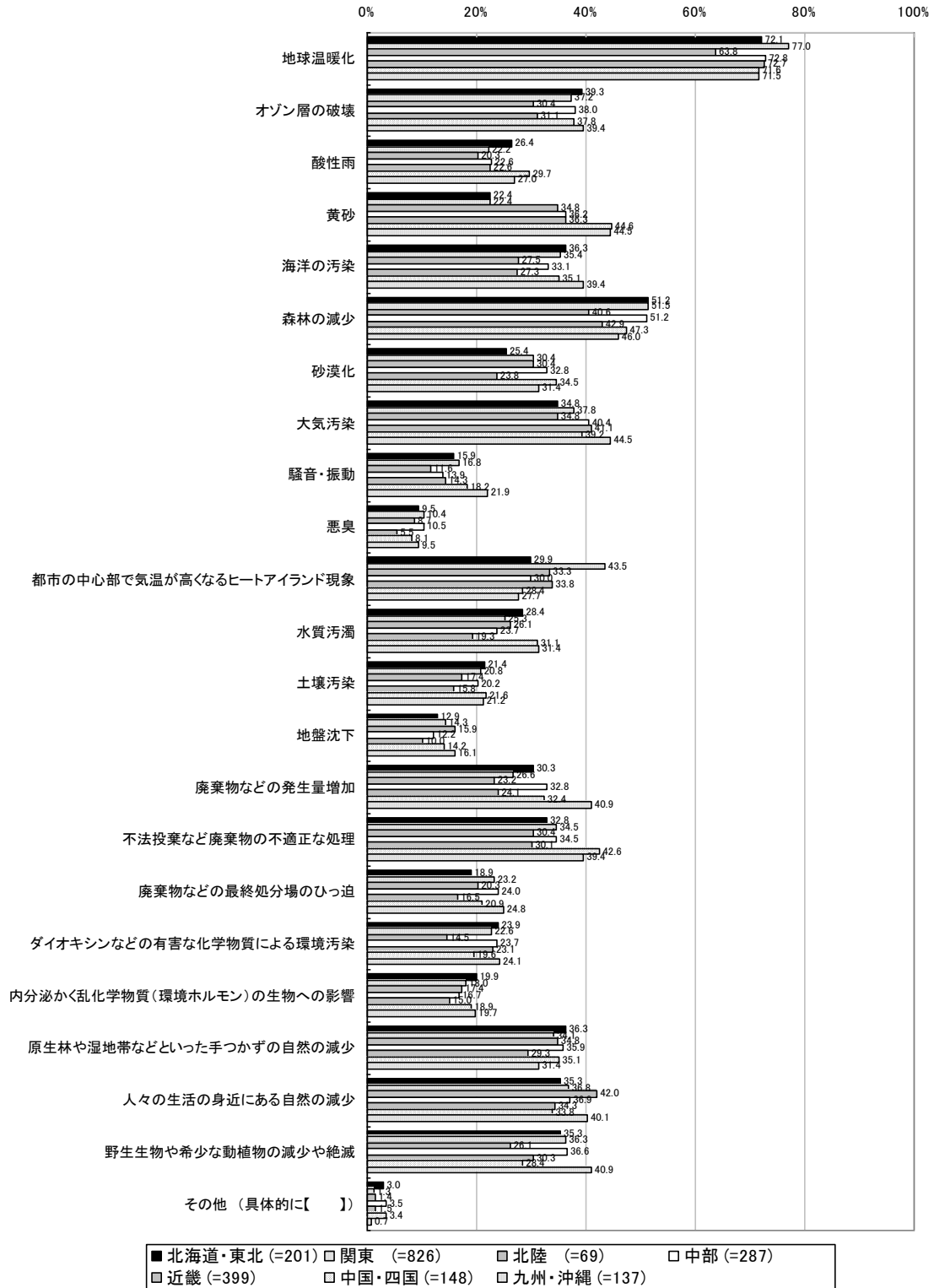
図表 1-48 関心のある環境問題（職業別 1/2）



図表 1-49 関心のある環境問題（職業別 2/2）



図表 1-50 関心のある環境問題（地域別）



図表 1-51 関心のある環境問題（都市規模別）

